

令和7年度（2025年度）上半期 北海道病院事業改革推進プラン自己点検・評価書（案）

目 次

第1章 病院別評価

（1）江差病院	P 1
（2）羽幌病院	P 7
（3）緑ヶ丘病院	P13
（4）向陽ヶ丘病院	P17
（5）子ども総合医療・療育センター	P22

第2章 経営改善に向けた評価	P27
----------------	-----

第3章 全体評価	P39
----------	-----

第1章 病院別評価

(1) 江差病院

プランにおける道立病院が果たすべき役割・機能の今後の方向性	令和7年度(2025年度)取組方針作成に当たっての基本的な考え方
<ul style="list-style-type: none"> ○ 南檜山圏域の地域センター病院として、急性期医療、人工透析等、重要な役割を担っており、今後も必要な診療体制や回復期機能を確保する。 ○ 総合診療医の養成・確保に向けて、札幌医科大学が設置した「地域医療研究教育センター」に引き続き医学・研究フィールドを提供するとともに、札幌医科大学と連携を密にしながら、初期臨床研修医や医学生の研修受入を推進する。 ○ 地域医療構想の実現に向けて、地域医療連携推進法人南檜山メディカルネットワークにおける取組を通じて、医療機関間の機能分担、業務連携を推進する。 ○ 入院医療を含めた精神科診療体制については、地域のニーズを把握した上で、今後の方向性について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 札幌大の地域医療研究教育センターや地域医療連携推進法人の機能も活用しながら、病院機能の効率化を図り、南檜山圏域の中核的病院として、必要な医療機能を維持・確保し、地域のニーズに応える。 ○ 地域の関係機関との連携強化や各種広報媒体の充実等を通じ、患者の確保につなげる。 ○ 患者数の推移や看護職員の確保状況などを踏まえ、病床規模の適正化や 病床機能のあり方などについて検討を進める。

令和6年度(2024年度)の委員会評価
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域連携室を中心とした取組等により前年度を上回る紹介患者を受け入れたほか、入院について、地域包括ケア病床を増床し、患者数、収益ともに目標を達成したことは評価する。引き続き、地域ニーズに応じた医療機能の維持、強化に努めること。 ○ 病床規模や人員体制の適正化について、地域医療連携推進法人等を活用しながら引き続き検討を進めること。

取組項目	令和7年度(2025年度)における取組方針	令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検
1 収益の確保 ①患者数の確保、新規患者の掘り起こし	<ul style="list-style-type: none"> ○ 南檜山圏域における地域センター病院として、一般医療や二次救急医療を継続しつつ、人工透析患者の受入れや圏域に不足する急性期経過後の地域包括ケア病床の運用などにより、地域で求められる医療機能を維持していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前年度と同等の入院機能(病床数)及び外来診療体制(診療科)を維持。 ・ 人工透析患者数：68人(実人数)【目標：73人(実人数)】 ・ 地域包括ケア病床利用率：81.0%【目標：93.0%】
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 札幌医科大学の地域医療研究教育センター事業により派遣されている指導医等により総合診療科や消化器内科などの診療体制を確保し、地域のニーズに応える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指導医を含め必要な医師を確保し、外来診療体制を維持。 ・ 常勤医師：10人(前年度10人) ・ 指導医の受入：常勤医1人、非常勤医5人(前年度上期：常勤医1人、非常勤医5人)
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域医療連携推進法人や保健所などの関係機関の取組と連携などを図りつつ、地域連携室が中心となって、医療従事者向けの会議や地域住民などを対象とする講演会に参画し、病院機能の周知等を行うとともに、ドクターズミーティング(当院専門医と圏域の医師等との意見交換)を開催し、医療機関相互の患者紹介を推進するなどして、患者数の確保を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の医療従事者・住民への病院機能の周知や、紹介・逆紹介件数の向上に取り組んだ。 ・ 医療従事者向けの会議等への参画：4回【目標：年17回】 ・ ドクターズミーティングの開催：下半期実施予定 ・ 紹介患者数：627件【目標：1,320件】 ・ 逆紹介患者数：461件

取組項目	令和7年度(2025年度)における取組方針	令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検
①患者数の確保、新規患者の掘り起こし	○ 地域医療連携推進法人での協議などにより、夜間帯における救急対応を当院に集約するとともに、更なる圏域内の機能分担や業務連携、病床機能などの検討を進めながら、患者の確保に努める。	○ 令和7年4月より夜間帯における救急対応を当院に集約化した。 ・ 夜間救急受入患者数：466人（前年度上期 385人）
	○ 江差保健所や管内の各町、関係機関と地域の現状を把握し健診率の向上に向けた課題を検討、協議することで健診受診者の拡大を図る。	○ 出張医来院日程の関係で検診が1日で終わらない方に対して、健診を受けてもらえるよう日程調整に取り組むなど健診受診者の拡大を図った。 ・ 健診受診者：357人（前年度上期 270人）
	○ ホームページ、SNS、広報誌の活用などにより、当院の医師紹介、診療情報をタイムリーに掲載し、患者の掘り起こしに努める。	○ ホームページでMRI、CT等の高額医療機器の機能等について周知。 ・ MRI：392件【目標：830件】、CT：1,237件【目標：2,600件】 ○ 内閣府主催の大規模地震時医療活動訓練において、院内DMATを中心に実施し、九州・沖縄地区から派遣DMAT 5チームを受け入れた様子をSNS(X)に掲載（9月）。 ○ 地域医療連携推進法人が発行する「法人だより」に、法人の取組や各医療機関の状況を掲載。（8月）
②病院が有する機能の有効活用	○ 地域医療連携推進法人内における共同利用をより一層促進するなど、高額医療機器の有効利用に努める。	○ 圏域の医療機関に対し機器の利用促進を依頼。 ・ 利用件数：106件（前年度上期 131件）
	○ 医師と各部門の継続的な連携により、検査、栄養指導、リハビリテーション等の実施件数を増やし、収益増に繋げる。	○ 多職種が参加するカンファレンスを毎週実施。 ・ 外来リハビリテーション等実施件数：316単位【目標：1,500単位】
	○ 感染症指定医療機関として、新興感染症等の発生に備え、北海道と締結した医療措置協定に基づき、感染症対策について二次医療圏において求められる役割を果たしていく。	○ 新興感染症等の受け入れに備えた体制等を維持。 ・ 感染症指定医療機関として、新興感染症等の発生に備え、北海道との医療措置協定を締結中。
③適切な診療報酬の獲得	○ 職員が研修やセミナーを積極的に受講し、知識の向上を図るとともに、診療報酬請求適正化対策委員会を中心として、収支改善に資する新たな施設基準や加算取得に向け、定期的に要件の確認を行う。	○ 診療報酬請求適正化対策委員会において、新たな施設基準や加算取得について検討。 ・ 入退院支援加算の算定：191件【目標：420件以上】 ・ 入院・外来栄養指導：22件【目標：200件以上】
	○ 経営計画推進会議や診療報酬適正化委員会において査定内容の精査・検証を行うなど、査定率の改善を図るほか、請求漏れについても定期的に確認することで、適切な診療報酬の請求に努める。	○ 毎月の院内会議での査定内容の報告などを通じた意識付けや職員による算定内容の確認の徹底、審査機関への積極的な問い合わせ等により査定率を改善。 ・ 診療査定率：0.35%【目標：0.26%】 ・ 北海道厚生局による適時調査(7月)での重大な指摘なし。

取組項目	令和7年度(2025年度)における取組方針	令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検
④道立病院の利用促進に向けた取組の充実	○ 地域連携室の患者相談窓口において、医療に関する様々な相談を広く受け入れるとともに、患者・家族個々に合わせた対応や丁寧な説明等を行うことにより病院への評価の向上に取り組む。	○ 相談内容に応じて、院内カンファレンスを行うなど迅速な対応に努めた。
	○ 地域連携室による入院前の面談や細やかな施設入所支援、在宅への退院支援など、幅広い入退院支援を行い、患者が安心して療養生活が送れる環境を整える。	○ 入院患者の心身の状況等の総合的な評価を踏まえ、ケアマネージャーや相談支援専門員と連携し、退院後のケアプランや各種サービス等についての説明・指導を積極的に実施。 ・ 入退院支援加算の算定：191件【目標：420件以上】(再掲) ・ 介護支援等連携指導料：26件
	○ 患者満足度調査等により、病院が提供しているサービスに対する患者の評価を把握し、それに対し迅速に対応していくことで、患者サービス、療養環境等の向上を図る。	○ 透析7月、外来7月～9月、病棟5月～9月に患者満足度調査を実施。 ・ 満足している患者の割合：透析90.9%、外来89.2%、病棟92.9% ・ 指摘事項： ・ 透析：寒い、透析室が騒がしいなど ・ 外来：待ち時間が長いなど ・ 病棟：集計中 →12月の患者サービス向上委員会にて改善策を協議予定。
	○ 広報誌やホームページ、SNSを活用したタイムリーな情報提供により、病院の利用促進を図る。	○ ホームページ等での掲載に加え、自治体の広報向けに病院の情報を提供。 ・ 新任医師の紹介、マスクの必要性、MRI検査の紹介
2 費用の縮減	○ 後発医薬品やバイオシミラーへの積極的な切り替えを行うほか、現在採用している検査方法や試薬材料等を定期的に見直すことにより、医薬材料費の縮減を図る。	○ 後発医薬品への切り替え等を実施。 ・ 後発医薬品使用割合：96.9%【目標：95.0%】 ・ 検査及び試薬材料費：30,426千円【目標：61,000千円】
	○ 共同購買事業を活用し、医療材料の廉価品への切り替えを継続するほか、ベンチマークシステムを活用することにより医薬材料費の縮減を図る。	○ 共同購買事業の積極的な活用(試算額：1,135千円)。 ・ 共同購買事業を活用した医療材料：69品目(前年度上期69品目) ・ ベンチマークシステムの活用
3 経営基盤の強化	○ 地域医療連携推進法人での協議などにより、救急医療の集約化を図るとともに、管内における医療機関間の機能分担や業務連携、入院機能の集約化などの体制整備を進める。	○ 令和7年4月より夜間帯における救急対応を当院に集約化した。 ・ 夜間救急受入患者数：466人(前年度上期385人) ○ 圏域内の機能分担等の検討を進めた。(再掲) ・ 病床機能検討委員会の開催：1回

取組項目	令和7年度(2025年度)における取組方針	令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検
3 経営基盤の強化	○ 札幌医科大学の地域医療研究教育センターと連携し、引き続き初期臨床研修医や医学生の研修体制を整備するとともに、指導医等の受入れを行い、診療体制の充実を図ることにより経営基盤の安定を図る。	○ 初期臨床研修医・医学生の積極的な受入、将来的な医療従事者の確保。 ・ 初期臨床研修医：4人【目標：8人】 ・ 医学生：4人【目標：8人】 ○ 来年度からの広域連携型プログラムの開始に向け、倉敷中央病院・札幌医科大学附属病院・江差病院の3者間で派遣契約を締結。
	○ 診療看護師「NP（ナースプラクティショナー）」の活用の可能性について、本庁と連携しながら、他病院の状況を踏まえて検証する。	○ 費用対効果を含めた、活用の可能性を引き続き検討するため、他病院の状況を注視 ○ 看護師の確保に向けた取組の展開。 ・ 職場体験の実施（高校生6月、中学生9月） ・ 看護実習生の受入：延べ16人（前年度上期：20人） ・ 江差高等看護学院での医療安全などの講義を実施。
4 デジタル化への対応	○ ID-L i n kシステムの活用により南檜山圏域だけでなく、南渡島圏域の他医療機関との診療情報の共有を進める。	○ 4月からプログレスノートの公開を開始。 ○ 4月から、南檜山圏域内において、介護事業所等が各病院の情報を閲覧できる体制を整備。
	○ マイナ保険証利用（オンライン資格確認）について、引き続き院内掲示のほか、窓口での声かけ等により利用促進を図る。	○ ポスターの院内掲示や窓口での案内を継続。 ・ 8月時点の利用割合：30.8%
	○ 電子処方箋の導入及び適切な運用により、薬局等との情報連携によるリスク回避や質の高い医療の提供を図るとともに、患者へのヒアリングなどに係る業務負担の軽減や印刷代などのコスト削減を推進する。	○ 4月に電子処方箋システムを導入し、9月から運用開始。
	○ 外部からの不正アクセス防止などの情報セキュリティ対策のため、システム保守業者等と連携し医療情報システムのリスク管理等を徹底するとともに、全職員に対し、情報セキュリティ対策に係る研修を実施し、医療情報の漏洩防止等に努め、セキュリティ対策の強化を図る。	○ 情報セキュリティ対策の徹底を図った。 ・ 通信機能を有する医療機器と情報システムを連携するH Rジョイントの活用（継続） ・ 医療情報システム研修会開催（下半期実施予定） ・ 情報セキュリティ対策に係る研修の実施（下半期実施予定）

取組項目	令和7年度(2025年度)における取組方針	令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検
5 職員の経営改革意識の向上	○ 収支状況について経営推進会議等で分析・報告を行い、病院の経営状況を全職員が共有することで、職員の経営改革意識の向上を図る。	○ 経営推進会議において毎月の収支状況や分析結果を報告 ・ 経営方針及び経営情報の共有：6回【目標：12回】
	○ 働き方改革の取組としての院内におけるタスクシフト／シェアの検討の中で、セクション間における相互理解を深めながら業務の効率化について議論することで、職員の経営改革意識の向上を図る。	○ 経営推進会議において毎月の収支状況や分析結果を報告【再掲】 ・ 経営方針及び経営情報の共有：6回【目標：12回】
6 その他	○ 一般病床の利用率が低迷していることから、患者数の推移や看護職員の確保状況などを勘案しつつ、病床規模の適正化や病床機能のあり方について検討を進める。	○ 患者数や医療従事者の確保状況などを踏まえ、病棟及び外来の看護師に係る効率的な配置について検討を進めた。 ○ 病床機能・規模については、新たな地域医療構想の議論等を踏まえながら、引き続き検討。
	○ 高齢患者の割合が増加傾向にあり、看護職員と看護補助者の業務分担や協働の必要性が高まっていることから、看護補助者の適正配置について検討を進める。	○ 業務分担の内容や必要人数等について、専門会社に分析を依頼。今後、必要性や費用対効果を十分検証の上、対応を決定。 ・ 看護補助者：9名（前年度：9名）

令和7年度(2025年度)上半期実績							令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検							
〈経営指標及び数値目標〉							【患者数】							
指 標		令和7年度		令和6年度		目 標 比	前 年 比	○ 入院患者数は、骨折や腱板断裂など比較入院期間が長い患者が多く、目標患者数を上回った。 ○ 外来患者数は、小児感染症の減少や紹介患者件数の減などにより、目標患者数を若干下回った。 【収 益】 ○ 入院収益は、患者数が増加したものの、コロナ患者の減による注射料の減少などにより1人あたり収益が確保できず、目標を下回る水準にある。 ○ 外来収益は、患者数の減少に加え、透析患者に係るシャント拡張術の件数減などにより1人あたり収益が確保できず、目標を下回る水準にある。 ○ 特別利益は、過年度の損益の修正に伴い増加。 【費 用】 ○ 退職給付費の減少や院内保育所運営委託料が不要となったことに加え、医薬材料費比率が低く抑えられるなど、目標よりもかなり低い水準にある。 ○ 特別損失は、過年度の損益の修正に伴い増加。 【収支差】 ○ 医業収益は、診療単価の低迷などで目標より低い水準にあるものの、医業費用が給与費、経費、材料費の減少により、収支差（赤字額）は縮小傾向にある。						
		年間目標	上 半 期 実 績	上 半 期 実 績										
1日平均患者数	入院 40.0人	42.4人	40.0人	+2.4人	+2.4人									
外来	255.5人	246.2人	252.7人	▲9.3人	▲6.5人									
病床利用率	37.1%	39.3%	37.1%	+2.2P	+ 2.2P									
地域包括ケア病床利用率	93.0%	81.0%	82.8%	▲12.0P	▲1.8P									
医業収支比率	45.6%	55.9%	53.8%	+10.3P	+2.1P									
1日1人あたり収益	入院 42,637円	37,983円	39,891円	▲4,654円	▲1,908円									
外来	12,183円	12,019円	11,766円	▲164円	+253円									
医薬材料費対医業収支比率	23.3%	22.7%	23.6%	▲0.6P	▲0.9P									
後発医薬品使用割合	95.0%	96.9%	95.1%	+1.9P	+ 1.8P									
紹介患者数	1,320件	627件	670件	－	▲43件									
〈収支状況〉							(単位 百万円)							
区 分		令和7年度		令和6年度		目 標 比 (進捗率)	前 年 比							
		年間目標	上 半 期 実 績	上 半 期 実 績										
収	益	1,618	895	781	55.3%	114.6%								
医	業 収 益	1,423	683	682	48.0%	100.1%								
	うち入院収益	623	295	292	47.4%	101.0%								
	うち外来収益	753	367	369	48.7%	99.5%								
	医業外収益(他会計負担金)	194	88	83	45.4%	106.0%								
	特別利益	1	123	16	12,300.0%	768.8%								
費	用	3,219	1,405	1,336	43.6%	105.2%								
医	業 費 用	3,119	1,221	1,267	39.1%	96.4%								
	うち医薬材料費	320	155	161	48.4%	96.3%								
	医業外費用	97	47	51	48.5%	92.2%								
	特別損失	3	137	18	4,566.7%	761.1%								
収	支 差	▲1,601	▲510	▲555	－	－								

● 委員会評価(委員長私案)

- 限られた医療資源の中、地域のニーズに応じた医療機能を維持しながら、救急医療の集約化や紹介・逆紹介の推進など患者数の確保や診療単価の引き上げ等に取り組んでいると認められるが、収支に係る目標を下回る見込にあることから、更なる収益確保・費用削減に取り組むこと。
- 病床利用率が30%台と極めて低い状況にあることから、地域医療構想等との整合性を図りつつ、圏域内医療機関との機能分担及び病床規模・機能の適正化に向けた検討を加速すること。

(2) 羽幌病院

プランにおける道立病院が果たすべき役割・機能の今後の方向性	令和7年度(2025年度)取組方針作成に当たっての基本的な考え方
<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合診療専門研修プログラムの基幹病院として、専門研修プログラムの更なる広報、道内外勤務医師への募集活動及び視察の受け入れ等により、専攻医の確保に努めるとともに総合診療医や地域医療を志す医師の人材育成及びフォローアップ機能を担っていく。 ○ 地域のニーズを踏まえながら、引き続き地域包括ケア病床の必要数を確保するとともに、地域連携室を中心とした周辺医療機関等との連携により患者の確保を図る。 ○ 地域医療構想調整会議等での議論を踏まえながら、病床規模の適正化や休床部分の有効活用について検討する。 ○ ヘキ地医療や離島診療支援が求められることから、ICTも活用しながら離島等の医療支援に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人口減少や高齢化など、病院を取り巻く環境が厳しい中であっても、総合診療科を中心に、ICTを活用した診療支援も行いながら、センター病院として地域で必要とされる医療を提供していく。 ○ 地域の関係機関との連携強化や各種広報媒体の活用を通じ、患者の確保につなげる。

令和6年度(2024年度)の委員会評価

<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域医療を担う医師、看護師、コメディカルの人材育成や将来の人材確保につなげるため、積極的に研修や実習を受け入れていることは評価する。今後も地域医療を担う医療従事者の人材育成や将来の人材確保につなげるよう努めること。 ○ 町内民間病院の閉院に伴う紹介患者の受入れや小児科の放課後時間帯の外来の開設を行い外来患者数が増加したこと、後発医薬品使用割合が目標値や前年度実績より上回ったことは評価する。しかしながら、入院患者数の減少により入院収益も減少していることから、引き続き、関係機関との連携強化等による紹介患者の増加など、患者確保に努めること。

取組項目	令和7年度(2025年度)における取組方針	令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検
1 収益の確保 ①患者数の確保、新規患者の掘り起こし	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域連携室を中心に、緊密な情報交換・情報提供も行いながら、医療機関・福祉施設等への訪問や退院支援などの連携を通じ、患者確保を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域連携室の職員による医療機関・福祉施設・自治体等への訪問、フレイル外来・リハビリ入院・レスパイト入院等の説明や患者紹介の働きかけを実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問回数：37 か所、119 回 ・ 紹介患者数：263 件【目標：年間 600 件】 ○ 自治体と要介護者や介護予防対象者等の情報を共有。 ○ 救急患者の受入要請への対応。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 救急車搬入件数：160 件（前年度上期：169 件） ○ 広報誌やパンフレットの配布によるフレイル外来の受診勧奨。

取組項目	令和7年度(2025年度)における取組方針	令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検
①患者数の確保、新規患者の掘り起こし	○ 地域包括ケア病床の役割を果たすよう、軽症急性期（サブアキュート）患者、ポストアキュート患者及びレスパイト入院患者の受入れを維持する。地域包括ケア病床運営カンファレンスやベッドコントロール会議の実施により、地域包括ケア病床の稼働率向上に努める。	○ 地域包括ケア入院管理料1の施設基準を維持。 ・ サブアキュート入院患者数：32人（前年度上期 26人） ○ 地域包括ケア病床運営カンファレンスやベッドコントロール会議での対象患者の選定や稼働状況の確認など、地域包括ケア病床の効果的・効率的な運用。 ・ 地域包括ケア病床利用率：49.8%【目標：60.0%、前年度上期：41.7%】
	○ 患者ニーズに対応し、小児科の夕方診療を継続し小児患者の掘り起こしを図る。	○ 放課後時間の小児科外来の継続。（週2回）
	○ 官公署や事業所等の健診需要を把握し、健診受入れ枠の拡大・健診後の受診継続を図る。	○ 町内の乳幼児健診、小中高校の学校等健診業務及び学校医の受託、幼稚園、認定こども園の健診業務及び園医の受託の継続。 ・ 特定健診受診患者数：70人【目標：年間200人】 ・ 事業所健診受診者数244人【目標：年間800人】 ○ 町内官公署、事業所との産業医契約の締結。（安全衛生の巡視、助言） ○ 警察署との警察医の契約締結。（検案実績：4件）
②病院が有する機能の有効活用	○ 医師及び医療従事者の保持資格、当院保有の医療機器等による実施可能な検査・健診や救急告示等についてホームページ、SNS、院内掲示などで広報し、病院機能の有効活用に努める。	○ ホームページへの掲載などにより高度医療機器の利用を促進。 ・ CT検査数：551件【目標：年間1,200件、前年度上期：521件】 ・ MRI検査数：215件【目標：年間420件、前年度上期：199件】
	○ 透析患者に対し、運動療法やフットケア等を継続、自己管理ができるよう指導するなど、ADL維持向上、合併症予防に努め、当院での透析継続を図る。	○ 透析の継続に向けた運動療法やフットケアの継続。旅行透析患者の受入れ。 ・ 透析患者数（実人数）：29.7人／月【目標：34人／月】
	○ 新（再）興感染症拡大時には、発熱等の症状のある患者等に対する診療・検査を実施するなど、保健所をはじめ、他の医療機関や関係機関と連携し、必要な診療体制の構築に努める。	○ 発熱外来における発熱患者の診察・検査、新型コロナウイルス陽性患者の入院受入れ。 ○ 羽幌町と高齢者対象のインフルエンザワクチン及び新型コロナウイルスワクチン接種事業について打合せを実施。
③適切な診療報酬の獲得	○ 診療報酬請求漏れ対策委員会において、診療報酬請求の査定状況及び査定内容・要因を報告し、再査定の防止を徹底するとともに査定率の改善を図る。	○ 診療報酬請求漏れ対策委員会において、本年度の強化項目を定め、各部門間及び医事受託事業者との情報共有と意見交換を実施。 ・ 診療報酬査定率：0.22%【目標：0.14%】
	○ 加算が取り下げまたは下位算定となった場合、要因を幹部職員と精査し、再算定に向けて取組を行う。	○ 退院時薬剤情報指導管理料に係る目標を設定。 ・ 退院時薬剤情報指導管理料：156件【目標：年間420件、前年度上期：149件】 ○ 抗菌薬適正使用体制加算の施設基準の継続。 ○ 新たな施設基準の届出を実施。 ・ 感染症対策向上加算2、薬剤管理指導料、病棟薬剤業務実施加算1

取組項目	令和7年度(2025年度)における取組方針	令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検
③適切な診療報酬の獲得	○ 診療報酬請求漏れ対策委員会において、施設基準に応じた加算取得や請求漏れ防止対策について検討するとともに、診療報酬制度の基礎知識や改定に伴う施設基準などについて理解を深めるため、全職員を対象とした研修会を開催する。	○ 算定している施設基準の内容確認や査定原因に基づく今後の対応策について院内で情報を共有。
④道立病院の利用促進に向けた取組の充実	○ 住民組織の支援団体との交流会や広報誌発行のほか、公開講座や出前講座の開催、ホームページやSNSの活用により当院の取組や機能を住民に周知し、利用促進を図る。	○ ホームページや院内掲示で、常勤医師の保持資格、当院の診療案内、採用状況等を幅広く周知。 ○ 各種SNSで医師、研修医等の活動状況に関する情報を提供。 ○ 住民組織の支援団体「折り鶴」が発行する広報誌において、新入職員の紹介や地域連携室からのお知らせを掲載。 ○ 羽幌町広報誌において副院長医療コラム「DR佐々尾の健康カルテ」を毎月連載。 ○ 健康出前講座の講師を医師のほか、看護師やコメディカルまで拡大。 ○ 羽幌町内の介護施設に感染管理認定看護師を講師として派遣予定(10月)。
	○ 新規開設するLINE公式アカウントを活用し、チャットボットによる自動応答を行うなど、患者の利便性向上を図り、利用促進につなげる。	○ 公式LINEの運用を開始(4月～)し、診療案内や診療予約案内を自動返信にて実施。
	○ 接遇研修や投書箱、患者満足度調査の結果を活用して患者サービスの向上を図る。	○ 接遇研修・患者満足度調査は下期に実施予定。 ○ 投書された要望に対応し、飲み物の金属・プラスチック混合キャップ用回収箱を設置した。
2 費用の縮減	○ 医薬品や医薬材料の使用状況を精査し、購入品目の整理や在庫の適正管理に努める。また、医薬品等の契約単価について、全国自治体病院協議会ベンチマーク・分析システムの価格を参考にするなどして費用の縮減に努めるとともに後発医薬品の採用を推進する。	○ 使用頻度の低い医薬品や医薬材料の取扱いを薬事委員会で検討。 ・ 削除：6品目 ・ バイオシミラーへの切り替え：2品目 ・ 後発医薬品使用割合：97.4%【目標：95.0%】 ○ 全国自治体病院協議会ベンチマーク・分析システムの価格を参考にするなど医薬品の契約単価の縮減に努めた。 ・ 試薬材料費：26,100千円【目標：年間48,000千円以下】 ・ 薬剤費(投薬用)：2,977千円【目標：年間6,000千円以下】 ・ 薬剤費(注射用その他)：34,592千円【目標：70,000千円以下】
	○ 費用について共用パソコンへの表示や院内掲示による「見える化」を図ることにより、職員全体で費用縮減意識の向上を図る。	○ 電気料について「見える化」を図り、使用量の削減の働きかけを行った。 ・ 電気使用量：667,008Kw(前年度上期実績：660,552Kw)

取組項目	令和7年度(2025年度)における取組方針	令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検
3 経営基盤の強化	○ 臨床研修医の地域医療研修や医学生の実習及び診療看護師（以下「NP（ナースプラクティショナー）」という。）の実習に係る受入環境を整備し、医師やNPの確保につなげる。	○ 研修医や医学生、積極的な受入を実施：39人【目標：40人】 （初期臨床研修医：8人、医学生実習：16人、理学療法士実習：3人、看護学生早期体験実習：6人、医学生早期体験実習：6人）
	○ 総合診療専門研修プログラム、新・家庭医療専門研修プログラム、病院総合診療専門研修プログラム、地域総合診療専門医専門研修プログラムに係る専攻医の確保に努める。	○ 総合診療専門研修プログラム及び新・家庭医療専門研修プログラムに関する情報をホームページに掲載。 ・ 専攻医の確保：4人
	○ 医療従事者の確保・離職防止に向け、院内外の研修受講を充実させる。	○ 各種学会等の院外研修は、直接開催・Web開催とも積極的に参加。 ○ 院内の研修会は、感染防止対策及び受講機会拡大の観点から、同内容で複数回開催。
	○ 将来の医療従事者の確保に向け、各種養成校からの実習受入れを積極的に行う。	○ 高校生のインターンシップについて看護師志望の学生1名を受入。
	○ 研修受入れの取組や内容についてSNSを活用した情報発信や学会活動で広報し、専攻医や研修医等の確保につなげる。	○ 総合診療専門研修プログラム及び新・家庭医療専門研修プログラムに関する情報をホームページに掲載。【再掲】
	○ 将来の地域医療の担い手確保に向け、キッズセミナーの開催や中高生の職場体験実習の受入れを積極的に行う。	○ 高校生のインターンシップについて看護師志望の学生1名を受入。【再掲】
	○ 将来の患者推計や近隣医療機関の状況も踏まえ、当院が果たす役割や機能について、地域医療構想調整会議等も活用しながら、将来的な病院機能のあり方について検討を進める。	○ 町内の乳幼児健診、小中高校の学校等健診業務及び学校医の受託、幼稚園、認定こども園の健診業務及び園医の受託。【再掲】 ○ 町内官公署、事業所との産業医契約の締結。【再掲】 ○ 警察署との警察医の契約締結。【再掲】
4 デジタル化への対応	○ 天売診療所・焼尻診療所とつないでいる遠隔診療装置を活用し、緊急時や医師不在時における離島診療支援を行う。	○ 常勤医不在の天売診療所、焼尻診療所への診療支援や準無医地区への巡回診療を継続。（常勤医着任 天売診療所9月、焼尻診療所7月） ○ 緊急時における遠隔診療装置を活用した診療の実施。 ・ 診療実績：31件
	○ Join（医療関係者間コミュニケーションアプリ）の活用により、搬送先と画像情報などの共有化を行い、救急搬送時の連携強化を図る。	○ Joinを活用し、留萌市立病院や旭川赤十字病院と画像情報を共有。 ・ Join利用件数（他院連携数）：5件／月【目標：5件／月】
	○ 円滑なマイナ保険証利用（オンライン資格確認）を行うため、院内掲示、窓口案内、声かけを継続するとともに、電子処方箋の円滑な運用に努める。	○ 院内掲示や受付での声掛けによる利用者の増加。 ・ 8月時点の利用割合：33.4%（前年度3月時点：21.4%）
	○ 電子カルテ導入及び利用開始に向けて多職種で課題の洗い出し、解消のうえ、早急に準備を進めていく。	○ 電子カルテシステム等運用委員会を立ち上げ、ワーキンググループ毎に検討を開始。（利用開始予定：1月）

取組項目	令和7年度(2025年度)における取組方針	令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検
4 デジタル化への対応	○ オンライン診療を開始すべく、システム導入も含めて体制を構築する。	○ 施設入居者に対してのオンライン診療（D to P with N）の検討や羽幌町と連携しての医療用 MaaS の導入について意見交換を行った。
	○ 外部からの不正アクセス防止などの情報セキュリティ対策のため、システム保守業者等と連携し医療情報システムのリスク管理等を徹底するとともに、全職員に対し、情報セキュリティ対策に係る研修を実施し、医療情報の漏洩防止等に努め、セキュリティ対策の強化を図る。	○ 職員に対し、情報セキュリティ対策の徹底を図った。 ・ 情報セキュリティ対策に係る研修を下半期に実施予定。
5 職員の経営改革意識の向上	○ 経営推進会議や診療報酬請求漏れ対策委員会において、各部門が経営状況について情報共有し、改善策を協議することなどにより経営改革意識の向上を図る。	○ 経営推進会議において毎月の収支状況や分析結果を報告。 ・ 経営推進会議の開催：6回【目標：12回】
	○ 入院・外来患者数や病床稼働率、主要数値目標の達成率について費用と同様に共用パソコンへの表示や掲示板への掲示による「見える化」を図り、全職員へ数値目標等の意識付けを強化する。	
	○ 役職・年齢を問わず、将来の羽幌病院のあるべき姿を議論する「HABORO プロジェクト」の活動により、課題の解決・改善に向けて取り組む。	○ HABOROプロジェクトに基づく情報発信やオンライン診療に向けた検討など、様々な取組を継続。

令和7年度(2025年度)上半期実績							令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検						
〈経営指標及び数値目標〉							【患者数】						
指 標		令和7年度		令和6年度	目 標 比	前 年 比	○ 入院患者数は、長期間の療養を要する疾病や療養病院、施設入所待ちの患者が多く入院していたため、目標を上回る水準となった。						
		年間目標	上 半 期 実 績	上 半 期 実 績									○ 外来患者数は、前年度とほぼ同程度を確保したものの、紹介患者数の伸び悩み等により目標を下回った。
1日平均患者数	入 院	19.4人	22.5人	19.5人	+3.1人	+3.0人							
	外 来	154.2人	146.6人	147.3人	▲7.6人	▲0.7人							
病 床 利 用 率		43.2%	50.1%	42.6%	+6.9P	+7.5P							
地域包括ケア病床利用率		60.0%	49.8%	41.7%	▲10.2P	▲8.1P							
医 業 収 支 比 率		40.9%	53.1%	50.4%	+12.2P	+2.7P							
1日1人あたり収益	入 院	38,217円	35,695円	36,319円	▲2,522円	▲624円							
	外 来	12,040円	11,793円	11,988円	▲247円	▲195円							
医薬材料費対医業収支比率		23.8%	23.0%	25.3%	▲0.8P	▲2.3P							
後発医薬品使用割合		95.0%	97.4%	93.1%	+2.4P	+4.3P							
紹 介 患 者 数		600件	263件	589件	—	▲326件							
〈収支状況〉							(単位 百万円)						
区 分		令和7年度		令和6年度	目 標 比 (進捗率)	前 年 比	【収 益】						
		年間目標	上 半 期 実 績	上 半 期 実 績									○ 入院収益は、平均在院日数の長期化等により1日あたりの収益が減少したものの、患者数の確保により目標を上回る水準となった。
収 益		845	425	416	50.3%	102.2%	○ 外来収益は、初診料の減少・再診料の増加による1日あたりの収益の減少とともに、患者数の減により目標及び前年度を下回る水準となった。						
医 業 収 益		757	381	367	50.3%	103.8%							
うち入院収益		271	147	129	54.2%	114.0%	【費 用】						
うち外来収益		449	214	219	47.7%	97.7%							
医業外収益(他会計負担金)		89	44	49	49.4%	89.8%	○ 費用は、医師減による給与費の減少や経費の減少により、低く抑えられている状況。						
特 別 利 益		1	0	0	—	—							
費 用		1,935	760	773	39.3%	98.3%	【収支差】						
医 業 費 用		1,849	717	729	38.8%	98.4%							
うち医薬材料費		171	88	93	51.5%	94.6%	○ 医業収益は、ほぼ目標と同水準を確保した一方、医業費用が給与費の減少により抑制されており、収支差(赤字額)は縮小傾向にある。						
医 業 外 費 用		86	43	44	50.0%	97.7%							
特 別 損 失		0	0	0	—	—	【経営指標及び数値目標達成に向けた取組】						
収 支 差		▲1,090	▲335	▲357	—	—							
							○ 外来患者数の確保や地域包括ケア病床利用率の向上を図るための取組を積極的に推進するとともに、費用の縮減・見直しに継続して取り組む。						

- 委員会評価(委員長私案)
- 人口減少に伴い医療需要が減少していく中、地域のニーズに応じた医療機能を維持・充実させながら、患者数の確保や新たな加算の取得、高度医療機器の利用促進等に取り組んでいることが認められる。他の医療機関との連携による紹介患者数の確保など目標の達成に向け、引き続き収益確保・費用削減等に取り組むこと。
 - 専攻医や初期臨床研修医、医学生等を積極的に受け入れていることは評価する。専門研修プログラムの充実も含め、今後とも地域医療を担う人材の育成に取り組むこと。
 - 病床利用率が50%台と低い水準にあることから、地域医療構想等との整合性を図りつつ、留萌市立病院等との役割分担や在宅医療の提供に係る協議を進めるとともに、病床規模・機能等の適正化について検討すること。

(3) 緑ヶ丘病院

プランにおける道立病院が果たすべき役割・機能の今後の方向性	令和7年度(2025年度)取組方針作成に当たっての基本的な考え方
<ul style="list-style-type: none"> ○ 精神科救急急性期医療入院料(スーパー救急)病棟を中心に、十勝第三次医療圏における精神科救急医療の拠点としての機能を担う。 ○ 国が推進する「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム」の構築に向けて、今後も患者の地域移行を着実に進めるとともに、精神科デイケア、訪問看護等の在宅患者支援については、患者の幅広いニーズに対応するため、地域の行政機関や民間事業所との連携や役割分担を進める。 ○ 十勝圏域・道東地域で唯一となる専門外来や専用病床を有している児童・思春期精神科医療の機能を担うとともに、周辺の自治体や学校などと連携しながら、適切な医療を提供することができるよう努める。 ○ 許可病床数と運用病床数の乖離の適正化や休床部分の有効活用を図るとともに、老朽化している現有施設のあり方について、今後の患者数の動向等を踏まえながら、病床の規模や患者の療養環境など、地域で求められる病院としての方向性を検討する。 ○ 診療体制の維持に向けて、常勤医師の確保に引き続き取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 十勝第三次医療圏における精神科救急医療の拠点としての役割を果たすとともに、効率的な運営体制の構築に取り組む。 ○ 道東における児童・思春期精神科医療の拠点として、積極的に役割を担っていく。 ○ 精神疾患を有する患者の在宅生活を支援し、患者の幅広いニーズによりきめ細やかに応えるため、地域の行政機関・民間事業所等との連携や役割分担を進める。

令和6年度(2024年度)の委員会評価

<ul style="list-style-type: none"> ○ 精神保健福祉士による予診などにより、患者の待ち時間の短縮や医師の診療負担軽減に係る取組を行うなど、患者サービス等の向上に努めたことは評価する。引き続き、救急患者の受入れや予診などの取組を行い、患者サービス等の向上に努めること。 ○ 精神医療が「新たな地域医療構想」に位置付けられることを見据え、周辺医療機関等と再編ネットワーク化を含めた意見交換を行うなど、病院が担うべき役割や適正な病床規模について検討を進めること。

取組項目	令和7年度(2025年度)における取組方針	令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検
1 収益の確保 ①患者数の確保、新規患者の掘り起こし	<ul style="list-style-type: none"> ○ 精神保健福祉士による予診や外来短時間診療を継続して実施し、医師の軽減負担や新規患者の増加と患者サービスの向上を図る。 ○ 地域連携室が中心となり地域の医療機関、保健福祉及び教育等の関係機関との情報交換等を行い、患者を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医師の負担軽減と外来時間の短縮による新規患者の確保を図るため、精神保健福祉士による予診を継続。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 予診実施件数：312件【目標：年間560件以上、前年度上期実績：300件】 ・ 外来新規患者数：212件【目標：年間450件以上、前年度上期実績：285件】 ○ 外来短時間診療件数：198件(前年度上期実績：193件) ○ 市町村が開催する関係機関との連携会議等への出席、情報交換等の実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議への出席回数：3回 ・ 紹介患者数：125件【目標：年間300人以上、前年度上期実績：162件】

取組項目	令和7年度(2025年度)における取組方針	令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検
①患者数の確保、新規患者の掘り起こし	○ デイケア及び作業療法等について、院内各部門との連携のもと、利用者ニーズにあったプログラムや新たな取り組みを実施することにより、新規利用者の獲得と利用拡大につなげる。	○ デイ・ショートケアは、就労支援事業所を併用する通所者の利用回数が減少する一方、退院後の診断等や見学利用後の新規利用契約者が増加。 ○ 来院者や職員を対象にデイケア利用者が作成した絵画等の作品販売会を実施。 ・ デイ・ショートケア件数：1,032件 【目標：年間2,100件、前年度上期実績：1,043件】 ・ デイケア新規利用契約患者数：10人 【目標：年間24人以上、前年度上期実績：7件】 ○ 作業療法は、対象となる入院患者の減少により実施件数が減少。 ・ 作業療法定算件数：1,724件 【目標：年間4,090件、前年度上期実績：2,299件】
②病院が有する機能の有効活用	○ 精神科救急急性期医療入院料を算定する病棟や修正型電気けいれん療法、児童思春期外来、専門外来、クロザリル等当院の特色となる治療や機能の周知に努め、患者の増加につなげる。 ○ 適切なベッドコントロールを行い、円滑に新規患者を受け入れ、各病棟の利用状況や入退院が見込まれる患者の対応等を共有しながら、患者の状況に応じた入院医療を提供する。	○ 帯広市や音更町が開催する医療と介護連携推進会議を通じた病院機能の連携、治療内容や機能の周知。 ○ 病床管理委員会において、患者の病状や入退院の状況を共有し、スーパー救急病棟から一般病棟への転棟など病床の効率的な運用に向けた調整を実施。
③適切な診療報酬の獲得	○ 運営効率化部会において、査定結果の情報などにより算定漏れや再査定防止に努め、新たな施設基準や加算取得に向けた検討を行う。	○ 査定結果の情報共有により、報酬の算定漏れ防止に努めるとともに、査定原因や今後の対応策について院内で検討、実施。 ・ 診療報酬査定率：0.03%【目標：0.1%以下、前年度上期実績：0.1%】
④道立病院の利用促進に向けた取組の充実	○ 患者サービス満足度調査、病院食嗜好調査、接遇研修を実施するほか、意見箱に寄せられた意見に対応し、患者サービスの向上を図る。 ○ ホームページ、SNS、広報誌等による精神科医療に関する情報発信や当院のPR等を通じ、新たな患者の確保に努める。	○ 入院患者対象の満足度調査や嗜好調査を実施。(嗜好調査：9月) ・ 満足している患者の割合：80% ・ 指摘事項：(入院患者満足度調査)：老朽化によるトイレや風呂などの設備に関しての不満が多かった。→可能な範囲で対応を行う。 ○ 広報誌「みどり通信」を発行。(9月) ○ インスタグラムを通じ、摂食障害に係る栄養指導の取組について情報発信。 ○ NPO法人が運営するボランティアを毎週1回受け入れ、喫茶コーナーを利用して患者や家族等の交流の場を提供。
2 費用の縮減	○ ベンチマークシステムを活用した医薬品の値引率向上や後発品への切替えを推進し、購入する材料等を継続的に見直すことで、費用の縮減を図る。	○ ベンチマークを活用し、業者との価格交渉を継続。 ・ 後発品の採用：3品目 ・ 後発医薬品使用割合：85.4%【目標：85.0%】

取組項目	令和7年度(2025年度)における取組方針	令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検
3 経営基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 緊急度の高い患者の受け入れをするための診療体制を維持するため、ホームページ等で医師募集についての情報発信を行うなど、医師確保に向けた取組を進め、地域から必要とされる精神科救急医療に取り組む。 ○ 「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム」の構築に向け、地域の関係機関との連携や役割分担を推進し、患者の地域移行を進めるとともに、患者の幅広いニーズに対応できる体制を構築する。 ○ 地域の医療機関・養成機関からのニーズに応え、連携を強化するため、将来的な医療従事者の確保を見据え、研修医・看護師・栄養士等の研修・実習施設としての役割を担い、研修医・実習生を受け入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 常勤医師が不足している中、宿日直応援医（非常勤）を確保し、診療体制を維持し、十勝第三次医療圏における精神科救急・急性期医療の中心的役割を担った。 ○ 在宅患者支援として、保健所や地域の訪問看護ステーションと連携し、患者個々の状況に合わせて地域移行を推進。 ○ ケアマネージャーとの打合せやケース会議の開催を通じ関係機関との連携を強化。 ・ 会議開催回数：8回 ○ 管内の臨床研修プログラム協力病院等として、研修医、実習生を受入。 ・ 初期臨床研修医：4人【目標：4人】 ・ 実習生：24人【目標：41人】 （看護師：21人、栄養士：2人、作業療法士：1人）
4 デジタル化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外部からの不正アクセス防止などの情報セキュリティ対策のため、システム保守業者等と連携し、医療情報システムのリスク管理等を徹底するとともに、全職員に対し、情報セキュリティ対策に係る研修を実施し、医療情報の漏洩防止等に努め、セキュリティ対策の強化を図る。 ○ マイナ保険証利用について、院内掲示のほか、受付窓口での声掛けやデジタルサイネージ、ポスターの院内掲示により利用促進を図るとともに、電子処方箋の円滑な運用に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 電子カルテなどの医療情報システムについて、システム保守業者と連携したセキュリティ対策の定期的な実施。 ○ 職員に対するセキュリティ対策の周知徹底。 研修の実施：0回【目標：年1回】 ○ 利用促進に向け、窓口での声掛けやデジタルサイネージ、ポスターの院内掲示を実施。 ・ マイナ保険証利用率（8月）：48.0%
5 職員の経営改革意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 経営推進会議等において経営指標を職員間で共有し、それぞれの目標達成に向けた取組を強化することで経営改革意識を向上する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 院内会議、経営推進会議等を毎月開催し、収支状況・プランの進捗状況等を報告。 ・ 経営情報の共有：6回【目標：年間12回】
6 その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設老朽化の状況を踏まえ地元自治体や関係機関等と意見交換を行うなど、病院が担うべき役割や適正な病床規模など、今後の病院のあり方について検討を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設設備の計画的な修繕及び更新に向け、専門民間事業者による劣化状況調査等を実施。

令和7年度(2025年度)上半期実績						令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検					
〈経営指標及び数値目標〉						【患者数】					
指 標		令和7年度		令和6年度	目 標 比	前 年 比					
		年間目標	上 半 期 実 績	上 半 期 実 績							
1日平均患者数	入 院	55.0人	50.6人	55.0人	▲4.4人	▲4.4人					
	外 来	141.9人	139.8人	141.9人	▲2.1人	▲2.1人					
病 床 利 用 率		71.5%	65.7%	71.5%	▲5.8P	▲5.8P					
精神科救急入院病床病床利用率		86.0%	87.3%	87.1%	+1.3P	+0.2P					
医 業 収 支 比 率		44.9%	52.9%	49.7%	+8.0P	+3.2P					
1日1人あたり収益	入 院	24,306円	25,693円	24,334円	+1,387円	+1,359円					
	外 来	7,785円	7,980円	7,865円	+195円	+115円					
医薬材料費対医業収支比率		8.8%	7.2%	7.9%	▲1.6P	▲0.7P					
後発医薬品使用割合		85.0%	85.4%	85.4%	+0.4P	0.0P					
訪 問 看 護 件 数		4,800件	2,338件	2,190件	－	+148件					
デ イ ケ ア 件 数		2,100件	1,066件	1,043件	－	+23件					
〈収支状況〉						(単位 百万円)					
区 分		令和7年度		令和6年度	目 標 比 (進捗率)	前 年 比					
		年間目標	上 半 期 実 績	上 半 期 実 績							
収 益		814	404	441	49.6%	91.6%					
医 業 収 益		772	384	392	49.7%	98.0%					
	うち入院収益	488	238	245	48.8%	97.1%					
	うち外来収益	267	138	138	51.7%	100.0%					
医業外収益(他会計負担金)		39	19	49	48.7%	38.8%					
特 別 利 益		3	1	0	33.3%	－					
費 用		1,767	750	813	42.4%	98.3%					
医 業 費 用		1,720	728	788	42.3%	98.4%					
	うち医薬材料費	66	28	31	42.4%	94.6%					
医 業 外 費 用		43	21	21	48.8%	97.7%					
特 別 損 失		3	2	3	66.7%	66.7%					
収 支 差		▲953	▲346	▲372	－	－					
						【収 益】					
						○ 入院収益は、精神科救急入院病床病床利用率向上などにより1人あたり収益が増加したものの、患者数の減少により、目標を下回る水準となった。					
						○ 外来収益は、患者数が減少したものの、1人あたり収益の確保により、目標を上回る水準となった。					
						【費 用】					
						○ 委託料や非常勤医師の報酬が増加した一方、退職給付費や資産減耗費の減少などにより目標よりも抑えられている。					
						【収支差】					
						○ 医業収益は、ほぼ目標と同水準を確保した一方、医業費用が抑えられた結果、収支差（赤字額）は縮小傾向にある。					

● 委員会評価（委員長私案）

- 常勤医師の確保が難しい中、医療機能を維持しながら、医師の負担軽減とともに外来時間の短縮など患者サービスの向上が図られていることは評価する。
- 引き続き、精神科救急への対応や児童・思春期精神科医療の提供、デイケアや訪問看護の実施に積極的に取り組むなど、患者数の確保と収支改善を図ること。

(4) 向陽ヶ丘病院

プランにおける道立病院が果たすべき役割・機能の今後の方向性	令和7年度(2025年度)取組方針作成に当たっての基本的な考え方
<ul style="list-style-type: none"> ○ 精神科救急医療体制に引き続き参加し、オホーツク第三次医療圏における精神科救急医療の拠点として、他の医療機関と連携・分担しながら、引き続き現行の精神科救急医療を担う。 ○ 急性期治療後の在宅患者支援の一層の充実を図るため、今後とも精神科デイケアや訪問看護を積極的に実施し、「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム」の構築を推進する。 ○ 認知症疾患医療センターを中心とした認知症専門医療、児童・思春期精神科医療について、他の医療機関等と連携を図るとともに、引き続きその機能を担う。 ○ 関係機関との意見交換の結果などを踏まえ、地域から求められる病院機能について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他の医療機関と連携・役割分担しながら、オホーツク第三次医療圏における精神科救急・急性期医療や認知症疾患医療センターなど、当院の役割・機能を十分に発揮できるよう取り組む。 ○ 地域の人口減少や高齢化など病院を取り巻く環境が厳しさを増す中、関係機関（行政機関・医療機関・介護事業所）との意見交換を継続しつつ、今後の患者受療動向も注視しながら効率的な病院運営のあり方について検討を進める。

令和6年度(2024年度)の委員会評価

<ul style="list-style-type: none"> ○ 病院機能の周知や関係機関との連携強化取組を行い、患者数確保に努めていること、また、オンライン診療の導入、北海道依存症専門医療機関の認定開始などの新たな取組を開始したことは評価する。しかしながら、依然として経営指標及び数値目標は目標値を下回っていることから、更なる関係機関との連携強化や収益確保に向けた取組を行うこと。 ○ 引き続き、効率的な経営に向けて、病床数や看護体制の適正化について具体的な検討を進めること。 ○ 精神医療が「新たな地域医療構想」に位置付けられることを見据え、病院が担うべき役割等について検討を進めること。

取組項目	令和7年度(2025年度)における取組方針	令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検
1 収益の確保 ①患者数の確保、新規患者の掘り起こし	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関係機関訪問等を通じて医療連携を積極的に推進し、紹介入院患者数の増加を図る。 ○ 認知症疾患医療センターにおける各市町健康まつりへの参加、出前講座や関係機関向け研修会の実施により、認知症に関する正しい知識の普及に努め、もの忘れ外来の新規患者の掘り起こしを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各市町や民生委員児童委員協議会からの依頼に基づき、認知症関連研修会に精神保健福祉士を派遣。 ・ 紹介件数：89件【目標：年間168件以上】 ・ 相談件数：737件【目標：年間1,332件以上】 ○ もの忘れ外来の新規患者の掘り起こしに向けた認知症に関する相談受付実施。 ・ 相談受付件数：281件（前年度上期実績：173件） ・ 認知症疾患医療センター新規患者数：61人 【目標：年間150人、前年度上期実績：74人】 ○ 認知症に関する正しい知識の普及・啓発を図るため、医療・介護関係者を対象とした認知症疾患医療研修会を開催。（参加者51名） ○ 認知症疾患医療センター通信の発行（4月・7月）、ホームページへの掲載など、認知症に関する正しい知識の普及啓発。

取組項目	令和7年度(2025年度)における取組方針	令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検
①患者数の確保、新規患者の掘り起こし	○ デイケアについては、医師・外来・病棟・地域連携室が連携し、プログラムの再検討や新たな取組の実施による新規対象者の掘り起こし、過去に通所していた患者に対する通所再開の勧奨など、患者の状態やニーズに合わせたリハビリを提供し、患者数の確保に努める。	○ 患者の状態に合わせたプログラム提供の継続により、就労支援事業所への移行や復職等に繋げることができたが、件数目標は達成できなかった。 ・ デイケア新規利用者：3人【目標：年間6人以上】 ・ デイケア件数：2,218件【目標：年間5,200件、前年度上期実績：2,634件】
	○ 作業療法については、患者の状態に合わせたプログラム編成や病棟内で活動（参加）できるプログラム内容とすることで、対象者の拡充を図る。	○ 入院患者数の減少や看護必要度の高い患者の増加に伴い、作業療法件数が減少。 ・ 作業療法件数：948件【目標：年間2,250件以上、前年度上期実績：1,158件】
②病院が有する機能の有効活用	○ 入院中や退院時に、デイケア・訪問看護が必要な対象者に対する勧奨や薬・栄養などに関する情報提供・指導を実施することにより、入院から退院、そして在宅へ移行するまでの切れ目のない円滑な医療の提供に努める。	○ 入院・外来患者に対し、デイケアや訪問看護利用のための情報提供や服薬指導、栄養指導を実施。 ・ 服薬指導件数：50件【目標：年間96件以上】 ・ 退院時薬剤情報管理指導実施率：100%【目標：100%】 ・ 栄養指導件数：52件【目標：年間120件以上】 ○ デイケア利用患者に対する栄養指導（食と健康の講座：月1回）の実施。 ○ 統合失調症患者向けプログラムに基づき、医師・担当スタッフが連携した患者のリカバリーに向けたサポートの実施。
	○ 患者の状態やニーズに合わせて精神保健福祉士が訪問看護に同行し、生活上の相談に対応するなど、患者が安心して地域で暮らせるよう支援を行う。	○ 利用者の高齢化等に伴う入院、施設入所、転居等により件数は減少。 ・ 訪問看護件数：1,000件【目標：年間2,500件、前年度上期実績：1,207件】
③適切な診療報酬の獲得	○ 増収対策検討部会において、新たな加算取得や届出済みの施設基準の要件を定期的に確認するなど、診療報酬請求の適正化を図る。	○ 経営推進会議における査定内容の共有などによる査定率の改善。 ・ 診療報酬査定率：0.05%【目標：0.03%以下】
	○ 経営推進会議・増収対策検討部会において、診療報酬請求に係る算定漏れ防止に向けた対応を協議するほか、査定内容の共有や再査定防止に向けた勉強会を毎月実施し、査定率の改善を図る。	○ 経営推進会議等で検討の上、新たな加算を取得。 ・ 感染対策向上加算3、精神科地域移行実施加算
④道立病院の利用促進に向けた取組の充実	○ 広報誌や病院パンフレットを関係機関に配付し、当院で受診できる症状や受診方法、デイケア、訪問看護などについて、周知を図る。 また、管内の医療関係者等を対象とした研修会を開催し、当院の医療機能を周知するとともに、ホームページにおける広報誌や年報などの掲載やSNSの活用など病院のPRに取り組む。	○ 外来診療体制や医療Ma a Sの取組等について広く周知を図るため、院外広報誌の発行・送付（107か所）、ホームページへの掲載を実施。 ○ 年報及び関係機関向けパンフレットにも同様に掲載。

取組項目	令和7年度(2025年度)における取組方針	令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検
④道立病院の利用促進に向けた取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 認知症疾患医療センター通信の発行により、認知症に関する情報提供や相談事例等の周知を図る。 ○ 患者サービス満足度調査や接遇研修の実施により、患者サービスの向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 認知症に係る情報提供等のため、センター通信を発行（年4回予定）。 ○ 入院患者対象の満足度調査（9～10月）や嗜好調査（8月）を実施。 ○ 患者サービス満足度調査の結果を踏まえ、患者への声かけやプライバシーへの配慮を常に心がけるなど、各部署での対策を実践。 ○ 病院食嗜好調査の結果を踏まえ、患者の要望に応じた献立について検討。 ○ 患者サービス向上委員会を3回（5月・7月・9月）開催し、接遇向上の取組を院内で共有。
2 費用の縮減	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医薬材料費の縮減に向け、ベンチマークシステムを活用した医薬品の値引率向上や、出荷調整が続いている後発医薬品の代替品の確保に努める。 ○ 光熱水費・消耗品については、使用量や使用方法等の見直しにより節減に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医薬品の契約単価について、全国自治体病院協議会医薬品ベンチマーク・分析システムの価格を参考とするなど、費用の縮減を図った。 ○ 医薬品は、一部品目の供給停止により後発品の流通が不安定であるが、薬事委員会において使用頻度の少ない医薬品の採用を中止するなど、医薬品の確保及び費用の縮減に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 後発医薬品使用割合：87.3%【目標：90.0%】 ・ 後発医薬品割合（金額ベース）：59.0%【目標：58.0%以上】 ○ 経営推進会議における情報共有、意識向上を図り使用量の節減に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 光熱水費の節減（使用料）：電気 416,915kw【目標：年間963,808kw以下】 水道 3,959 m³【目標：年間8,339 m³以下】 ガス 1,148.1 m³【目標：年間2,738 m³以下】
3 経営基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域連携室が関係機関を訪問し、病院機能の周知や医療情報の共有を行うほか「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム」の構築に向け、多職種連携による交流会等を通じて圏域における医療ニーズを把握しながら、地域の社会資源や関係機関と連携を強化し、地域から求められる医療提供体制を構築する。 ○ 精神科医療の専門的な研修会に医師・看護師等の医療従事者が積極的に参加することにより、スキルアップを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 院外広報誌の送付により病院機能を周知。 ○ 関係機関との連絡会議や訪問を通じた地域における医療ニーズの把握及び意見交換の実施。 ○ 北海道看護協会主催の研修会等への参加。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加件数：26件（前年度上期実績：26件） ○ 日本認知症学会教育施設として、専門医を中心とした認知症治療を行うほか、指導医のもと研修を実施し、認知症治療に携わる医師を育成。

取組項目	令和7年度(2025年度)における取組方針	令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検
3 経営基盤の強化	○ 将来の医療従事者の育成・確保を図るため、研修医・医学生・看護師・栄養士等の実習を受け入れるほか、地域貢献の一環として、地元高校生のインターンシップの実施に取り組む。	○ 感染防止に配慮しつつ、実習生の受入れを実施。 ・ 看護師：10人、栄養士：1人（前年度上期実績：看護師13名） ○ 地域貢献の一環としてインターンシップ（職場体験）を実施。 ・ 網走市内高校生：10人
4 デジタル化への対応	○ 網走市移動型医療サービス事業（医療 MaaS）の活用によりオンライン診療を導入し、網走市と連携しながら、患者や付き添いの施設職員等の通院負担軽減を図るとともに、PRに積極的に取り組み、導入拡大を図る。	○ 網走市内の施設に入所する患者を対象に、医療 MaaS を活用したオンライン診療を実施。 ・ オンライン診療件数：18件 ○ 院外広報誌における医療 MaaS についての周知。
	○ 外部からの不正アクセス防止などの情報セキュリティ対策のため、システム保守業者等と連携し、医療情報システムのリスク管理等を徹底するとともに、全職員に対し、情報セキュリティ対策に係る研修を実施し、医療情報の漏洩防止等に努め、セキュリティ対策の強化を図る。	○ 情報セキュリティ研修の実施。（12月実施予定）
	○ マイナ保険証（オンライン資格確認）については、ポスター掲示のほか、来院された患者に対する声かけなどにより積極的な利用勧奨に取り組むとともに、電子処方箋の円滑な運用に努める。	○ ポスター掲示や声掛けなどによる積極的な利用勧奨、カードリーダーの利用案内対応。
5 職員の経営改革意識の向上	○ 経営推進会議において収支状況や経営指標を共有するほか、数値目標の達成に向けた取組を強化するなど、経営改革意識の向上を図る。	○ 毎月実施する諸会議において、収支状況や前年度対比率、プランの進捗状況など経営の現状を共有するとともに、各部署の経営改善に向けた取組の進捗状況を確認するなど、経営改革意識の向上を図った。
6 その他	○ 病床利用率が低迷していることから、患者数の推移を勘案しつつ、地域から求められる機能や病床規模について検討を進める。	○ 病床のあり方について、本庁と協議しながら、院内で具体的な検討を進めた。 ・ 病床数適正化支援事業の活用により、許可病床を10床削減。

令和7年度(2025年度)上半期実績						令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検					
〈経営指標及び数値目標〉						【患者数】					
指 標		令和7年度		令和6年度		目 標 比	前 年 比				
		年間目標	上 半 期 実 績	上 半 期 実 績	上 半 期 実 績						
1 日平均患者数	入 院 外 来	34.3 人	30.5 人	33.8 人	▲3.8 人	▲3.3 人					
病 床 利 用 率		90.7 人	84.2 人	90.7 人	▲ 6.5 人	▲6.5 人					
医 業 収 支 比 率		32.7%	29.1%	32.2%	▲3.6P	▲3.1P					
		26.9%	30.8%	32.1%	+3.9P	▲1.3P					
1日1人あたり収益	入 院 外 来	16,964 円	17,955 円	17,059 円	+991 円	+896 円					
		9,227 円	8,898 円	8,996 円	▲329 円	▲98 円					
医薬材料費対医業収支比率		15.6%	16.0%	14.5%	+0.4P	+1.5P					
後 発 医 薬 品 使 用 割 合		90.0%	87.3%	92.5%	▲2.7P	▲5.2P					
訪 問 看 護 件 数		2,500 件	1,000 件	1,207 件	—	▲207 件					
デ イ ケ ア 件 数		5,200 件	2,218 件	2,634 件	—	▲416 件					
認知症疾患医療センター新規患者数		150 件	61 件	74 件	—	▲13 件					
〈収支状況〉						(単位 百万円)					
区 分		令和7年度		令和6年度		目 標 比 (進捗率)	前 年 比				
		年間目標	上 半 期 実 績	上 半 期 実 績	上 半 期 実 績						
収 益		524	246	271	46.9%	90.8%					
医 業 収 益		423	196	210	46.3%	93.3%					
うち入院収益		212	100	105	47.2%	95.2%					
うち外来収益		203	93	101	45.8%	92.1%					
医業外収益(他会計負担金)		99	49	54	49.5%	90.7%					
特 別 利 益		2	2	6	100.0%	33.3%					
費 用		1,624	661	685	40.7%	96.5%					
医 業 費 用		1,575	637	655	40.4%	97.3%					
うち医薬材料費		65	31	30	47.7%	103.3%					
医 業 外 費 用		48	23	24	47.9%	95.8%					
特 別 損 失		2	0	7	—	—					
収 支 差		▲ 1,100	▲ 415	▲ 414	—	—					
						【収 益】					
						○ 入院収益は、新たな加算の取得などにより1人あたり収益は目標を上回ったものの患者数の減少により、目標及び前年度を下回った。					
						○ 外来収益は、患者数の減少に加え、1人あたり収益も減少しており、目標及び前年度を下回った。					
						【費 用】					
						○ 医業収益の減と連動した医薬材料費の減少や、給与費の減少により、目標よりも抑えられている。					
						【収支差】					
						○ 医業費用が抑えられた結果、収支差（赤字額）は縮小傾向にある。					

- 【患者数】
- 入院患者数は、積極的な患者の受入に努めているが、退院支援等による地域生活への移行が進んでおり、目標を下回る水準となった。
 - 外来患者数は、常勤医不足に伴う外来診療体制の変更などにより、目標を下回る水準となった。
- 【収 益】
- 入院収益は、新たな加算の取得などにより1人あたり収益は目標を上回ったものの患者数の減少により、目標及び前年度を下回った。
 - 外来収益は、患者数の減少に加え、1人あたり収益も減少しており、目標及び前年度を下回った。
- 【費 用】
- 医業収益の減と連動した医薬材料費の減少や、給与費の減少により、目標よりも抑えられている。
- 【収支差】
- 医業費用が抑えられた結果、収支差（赤字額）は縮小傾向にある。

- 委員会評価（委員長私案）
- 認知症疾患医療センターとしての活用や網走市と連携したオンライン診療、デイケアや訪問看護の充実に取り組んでいるものの、入院・外来患者数や訪問看護件数など目標に達していないことから、より一層、実効性ある取組を推進すること。
 - 医療ニーズに即した医療提供体制の構築に向け、医師の確保等に取り組むこと。
 - 病床利用率は極めて低い状況が続いており、地域医療構想等との整合性を図りつつ、地域の医療需要的確な把握はもとより、圏域内医療機関や関係施設との機能分担について検討を進め、病床規模・機能を含めた診療体制の適正化を早急に進めること。

(5) 子ども総合医療・療育センター

プランにおける道立病院が果たすべき役割・機能の今後の方向性	令和7年度（2025年度）取組方針作成に当たっての基本的な考え方
<p><医療部門></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 現行機能を維持し、高度・専門性、特殊性の高い小児医療を提供する。 ○ 在宅支援室を中心とし、在宅への移行に向けて、他の医療機関との連携や退院後のサポートの強化など、入退院支援機能の充実を図る。 ○ 令和6年度のDPC制度への本格参加に向けて必要な体制を整備するなど、医療の質の可視化や収益の改善に向けた方策について検討を進める。 ○ 小児科専門研修プログラムの基幹病院として、専攻医の積極的な受入やプログラムの充実など小児科専門医の育成に取り組めます。また、外科系診療科や麻酔科においても小児領域を研修する専攻医や高度な技術の習得を目指す医師の受入に取り組み、小児の専門病院として求められる人材育成の役割を果たしていく。 <p><療育部門></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 旭川子ども総合療育センターとともに、医療と療育が連携した複合施設における現行機能を担うほか、市町村等に対する地域支援の取組を実施する。 ○ 北海道の小児に対する医学的リハビリテーションの中核的役割を担っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 北海道内唯一の小児総合専門病院として、安全かつ高度で質の高い医療を提供する。 ○ DPC対象病院として、医療の標準化とともに効率化を図り、着実な経営改善を進める。

令和6年度(2024年度)の委員会評価
<ul style="list-style-type: none"> ○ DPC算定の開始に伴い、傷病名コーディングの最適化やクリニカルパスの見直しを行うとともに、患者ニーズに対応し、新たな外来を開設したことは評価する。引き続き、収益確保や費用縮減に係る必要な取組を進めるほか、全道域にわたる医療機関との更なる連携強化に取り組むなど患者確保に努めること。 ○ 費用対効果や勤務環境に配慮しつつ、コドモックルの高度専門医療の機能を最大限発揮するため、NICU等の管理料の算定区分低下への対応も含め、必要な医師の確保など人員体制の充実に努めること。

取組項目	令和7年度(2025年度)における取組方針	令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検
1 収益の確保 ①患者数の確保、新規患者の掘り起こし	○ ホームページや広報媒体などの活用により、センターが有する機能の特色についてPRするとともに、道内の医療機関に対する個別訪問や地域連携セミナーの実施など、地域の関係機関等との連携強化を図り、患者数の確保、新規患者の確保・掘り起こしに努める。	○ 赤ちゃんの頭のかたち外来やP I C Uについて、マスメディアを通じた情報発信をしたほか、ホームページの更新、Xへの投稿を積極的に実施。 (取材対応：3回、ホームページの更新：48回、Xへの投稿：13回) ○ 地域連携セミナーを開催し、センターの特色や機能のPRを実施。 ・ 地域連携セミナーの開催：5回 ・ 新規紹介入院患者数：324人 【目標：年間800人以上、前年度上期実績：350人】 ・ 新規紹介外来患者数：804人 【目標：年間1,700人以上、前年度上期実績：757人】 ○ 受診ニーズに対応した医療提供機能の充実 ・ 皮膚科の新設(4月～) ・ 赤ちゃんの頭のかたち外来の新患診察日の拡充(4月～週1日→週2日) ・ ヘルメット矯正治療件数：22件
②病院が有する機能の有効活用	○ P I C U、N I C U及びG C Uの活用により、先天性心疾患等の重症患児の常時受入を継続するとともに、新規患者の受入拡大や移行期医療の支援体制充実を図る。 ○ 地域連携センターを有効に活用し、長期入院患者の在宅移行や在宅療養患者の適切なフォローアップなど、入退院支援・在宅支援体制の一層の充実に取り組む。	○ 重症患児(人工呼吸器・気管切開患者等)について、要請を断ることなく受入を継続。 ・ N I C U実入院患者数：50人(前年度上期実績：60人) ・ N I C U利用率：68.5%(前年度上期実績：72.6%) ・ G C U利用率：37.8%(前年度上期実績：49.3%) ・ P I C U利用率：75.0%(前年度上期実績：73.0%) ○ 市内産科クリニック等を訪問し、軽症患者の受入要請も対応することを周知。 ・ 訪問数：3件 ○ 医師、病棟及び在宅支援室等が連携し、早期からの入退院支援体制の充実等を図ったほか、患児の在宅療養実施に向けた検討を実施。 ○ 地域において療育支援に従事する職員の資質向上を図るため、市町村職員等を対象とした研修会を開催。 ・ 専門研修：5件、基礎研修：15件 ○ 札幌市の日帰り型産後ケア事業を開始。 ・ 利用者数：3人

取組項目	令和7年度(2025年度)における取組方針	令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検
③適切な診療報酬の獲得	○ DPC包括算定と出来高算定の比較分析を実施し、傷病名コーディングの最適化やクリニカルパスの積極的活用など、DPC包括算定における対出来高算定増収率のプラス維持を図る。	○ DPC委員会とコーディング委員会を統合し、より多くの診療科と情報を共有。 ○ 委員会において、各診療科の包括・出来高比較による請求状況の確認や、病名付けの最適化について検討等を実施。 ・ クリニカルパス適用件数：594件【目標：年間1,200件以上】
	○ 毎月の医局連絡会議などにおいて、診療報酬請求の査定状況を報告するとともに、再査定の防止について周知徹底を図り、査定率の改善に努める。 また、請求漏れの対応検討や施設基準要件の点検等を適切に実施し、獲得可能な診療報酬に期間損失を生じさせないよう、適正化対策に組織的に取り組む。	○ NICUなどの適切なベッドコントロールに努めたが、長期にわたり集中的な治療を要する患児がいるなど、管理料の算定率が目標値を大きく下回った。 ・ NICUの算定率：49.7%【目標：65.0%、前年度上期実績：66.5%】 ・ GCUの算定率：54.7%【目標：65.0%、前年度上期実績：72.0%】 ・ ICUの算定率：58.0%【目標：80.0%、前年度上期実績：80.5%】 ○ 毎月の医局連絡会議において、診療報酬請求の査定状況について情報共有し、査定率の改善を図ったものの、高額な手術の減額査定など高点数の項目の査定により、目標には達していない状況。 ・ 診療報酬査定率：0.84%【目標：0.80%、前年度上期実績：0.97%】 ○ 査定・返戻状況の確認や防止策などについて、医事委託業者と検討を実施。 ○ 新たな加算の取得 ・ 入退院支援加算2→1に区分変更
④道立病院の利用促進に向けた取組の充実	○ ご意見箱や患者相談等を通じて患者ニーズの把握に努めるとともに、職種ごとに開催する研修やカンファレンス、センター全体で開催する医療安全研修などの機会を通して、患者サービスの向上を図る。	○ ホームページへの新規情報の掲載やPR冊子の配付など、機能や特色が伝わるよう、引き続き積極的な情報発信に努めた。 ○ ご意見箱や患者相談等で寄せられたご意見に対し、対応可能なものは速やかに改善した。 ・ 指摘事項：設備の故障 → 改善に向けて速やかに修繕などを実施
	○ 病院機能を効果的に発揮し、高度かつ安全な医療を提供できるよう、医療機器等の計画的な更新に努める。	○ 更新計画に基づき、必要な医療機器等の整備について令和7年度予算に計上。 ・ 自動秤量機能付き散薬分包機の購入 ・ 全身用コンピュータX線断層装置の更新
2 費用の縮減	○ 医薬材料費の縮減に向け、医薬品ベンチマークシステムを活用するとともに、診療材料の共同購入品への切替を進める。	○ 共同購入への参加により、医薬材料費を縮減。(縮減額：1,326千円) ○ 輸血製剤の廃棄抑制を図るため、検査部門と医師との連携を強化。 ・ 輸血製剤の廃棄率：4.9%【目標：6.0%以下、前年度上期実績：5.6%】 ○ 試薬材料費について、一部の検査項目に実績課金方式を導入。 ・ 試薬材料費：24,815千円 【目標：年間58,000千円以下、前年度上期実績：31,432千円】

取組項目	令和7年度(2025年度)における取組方針	令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検
2 費用の縮減	○ 管理経費の縮減や保守と一体化した医療機器整備等を実施し、費用縮減に努める。	○ 一部医療機器の保守点検を臨床工学科で実施。 ○ 退院時処方への請求に関するルールを周知。 ○ 給食委託業務内容の整理・検討。
3 経営基盤の強化	○ 適切なDPCデータの提出や在院日数管理などを通じて、機能評価係数の向上に努める。 ○ 医育大学への医師派遣要請を継続するとともに、センターの臨床研修プログラムをホームページでPRし、医師の確保や中長期的な人材育成に努める。	○ 機能評価係数向上に向けて、日帰り検査入院などの取組の方向性を確認。 ○ 継続して医育大学への医師派遣要請を実施。 ○ 臨床研修プログラムをホームページでPR。 ○ 現地視察として医師2人、医学生2人を受入れ。
4 デジタル化への対応	○ 外部からの不正アクセス防止などの情報セキュリティ対策のため、定期的を開催する情報システム委員会及び関係セクションがシステム保守業者等と連携し、電子カルテ端末などの医療情報システムのリスク管理等を徹底するとともに、全職員に対し、情報セキュリティ対策に係る研修を実施し、医療情報の漏洩防止等に努め、セキュリティ対策の強化を図る。 ○ 医療のアクセシビリティ確保のため、通院困難等の患者の特殊事情を踏まえ、必要に応じてオンライン診療を実施する。 ○ マイナ保険証による受付について、院内掲示等による普及啓発、利用促進を図るとともに、電子処方箋の円滑な運用に努める。	○ 情報システム委員会を毎月開催し、情報セキュリティ対策の課題等の検討を実施。 ○ サイバーセキュリティ対策チェックリストによる確認の徹底。 ○ 他医療機関の患者情報の閲覧を可能とするため、ID-Linkシステムに参画。 ○ ポスター等の院内掲示など利用促進の取組を継続。
5 職員の経営改革意識の向上	○ 毎月の管理運営会議等において、全職員がセンターの運営状況を共有することで、経営改革意識の向上を図る。 ○ 診療科・部門ヒアリングを通じて、組織全体で課題などを認識・共有することで、経営改善に繋げる。	○ 院内会議において、毎月の経営状況を周知・共有。 ○ 診療科及び部門に対するヒアリングや、経営改善に向けた意見交換の実施などにより、経営に対する認識を共有。
6 その他	○ 開設20周年に向けて、広報活動等を通じて機運醸成を図る。	○ 機運の醸成に向け、子どもを対象とした絵画コンクールや啓発イベント等においてパネル展を開催。

令和7年度(2025年度)上半期実績							令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検						
〈経営指標及び数値目標〉							【患者数】						
指 標		令和7年度		令和6年度		目 標 比	前 年 比	○ 入院患者数は、脳神経外科の患者数の減少などにより、目標患者数を大きく下回る状況。		○ 外来患者数は、脳神経外科の患者数の増加などにより、目標患者数を若干上回る状況。			
		年間目標	上 半 期 実 績	上 半 期 実 績	上 半 期 実 績								
1日平均患者数	入院 外 来	62.8人 158.4人	51.1人 162.1人	59.0人 160.0人	▲11.7人 +3.7人	▲7.9人 +2.1人							
病 床 利 用 率		61.6%	50.1%	57.8%	▲11.5P	▲7.7P							
医 業 収 支 比 率		72.4%	51.3%	58.1%	▲21.1P	▲6.8P							
1日1人あたり収益	入院 外 来	147,051円 14,688円	87,979円 15,132円	92,555円 12,972円	▲59,072円 +444円	▲4,576円 +2,160円							
医薬材料費対医業収支比率		27.4%	35.2%	29.5%	+7.8P	+5.7P							
後 発 医 薬 品 使 用 割 合		75.0%	61.8%	75.8%	▲13.2P	▲14.0P							
手 術 件 数		860件	431件	429件	－	+2件							
NICUにおける他の周産期母子医療センターからの受入率		60.0%	44.0%	64.6%	▲16.0P	▲20.6P							
〈収支状況〉							(単位 百万円)						
区 分		令和7年度		令和6年度		目 標 比 (進捗率)	前 年 比	○ 入院収益は、脳神経外科や心臓血管外科における手術件数の減少や、NICU等の管理料の算定区分の低下等により、目標及び前年度実績を大きく下回る状況。		○ 外来収益は、新生児内科において高額薬剤（バイフォータス）の使用が多かったことなどにより、目標を上回る状況。			
		年間目標	上 半 期 実 績	上 半 期 実 績	上 半 期 実 績								
収 益		4,116	1,215	1,345	29.5%	90.3%							
医 業 収 益		3,964	1,137	1,268	28.7%	89.7%							
うち入院収益		3,372	823	999	24.4%	82.4%							
うち外来収益		563	304	257	54.0%	118.3%							
医業外収益(他会計負担金)		152	76	77	50.0%	98.7%							
特 別 利 益		1	1	1	100.0%	100.0%							
費 用		5,578	2,270	2,240	40.7%	98.7%							
医 業 費 用		5,472	2,219	2,180	40.6%	101.8%							
うち医薬材料費		1,078	400	374	37.1%	107.0%							
医 業 外 費 用		85	41	52	48.2%	78.8%							
特 別 損 失		20	10	8	50.0%	125.0%							
収 支 差		▲ 1,462	▲ 1,055	▲ 895	－	－							
							【収 益】						
							○ 入院収益は、脳神経外科や心臓血管外科における手術件数の減少や、NICU等の管理料の算定区分の低下等により、目標及び前年度実績を大きく下回る状況。						
							○ 外来収益は、新生児内科において高額薬剤（バイフォータス）の使用が多かったことなどにより、目標を上回る状況。						
							【費 用】						
							○ 高額薬剤の使用等に伴う医薬材料費比率の上昇やアンギオ撮影装置のX線管球交換などの支出増により、収益の減に比較して費用が高んでいる状況。						
							【収支差】						
							○ 収益の低迷、費用の増加により、収支差（赤字額）が拡大。						

- 【患者数】
- 入院患者数は、脳神経外科の患者数の減少などにより、目標患者数を大きく下回る状況。
 - 外来患者数は、脳神経外科の患者数の増加などにより、目標患者数を若干上回る状況。
- 【収 益】
- 入院収益は、脳神経外科や心臓血管外科における手術件数の減少や、NICU等の管理料の算定区分の低下等により、目標及び前年度実績を大きく下回る状況。
 - 外来収益は、新生児内科において高額薬剤（バイフォータス）の使用が多かったことなどにより、目標を上回る状況。
- 【費 用】
- 高額薬剤の使用等に伴う医薬材料費比率の上昇やアンギオ撮影装置のX線管球交換などの支出増により、収益の減に比較して費用が高んでいる状況。
- 【収支差】
- 収益の低迷、費用の増加により、収支差（赤字額）が拡大。

- 委員会評価（委員長私案）
- 新たな診療科の開設や診療枠の拡大、DPC制度導入への対応など医療機能の充実に取り組んでいることは評価するものの、入院に係る患者数・1人あたり収益ともに大きく目標を下回っていることから、早急に患者数の確保や診療単価の向上、費用の抑制に向けた対応策について、対策の追加も含め取組の強化を図ること。
 - 道内の小児医療の最後の砦として求められる専門的かつ高水準な医療提供の維持・充実に必要な医師等の医療従事者を安定的に確保すること。
 - 他の医療機関や関係施設との連携強化に資する具体的な方策・取組について検討し、実現すること。
 - 医療需要を十分に検証の上、効果的・効率的な診療体制への見直しを進めること。

第2章 経営改善に向けた評価
(1) 収益の確保

令和6年度(2024年度)の委員会評価	
○ 本年の診療報酬改定に対応した施設基準や加算の取得に取り組み、診療単価を引き上げたことは一定程度評価する。 しかしながら、入院・外来ともに患者数は前年度を下回っていることから、地域連携室を中心とした新規患者の確保に努めるほか、各病院に設置している診療報酬請求の適正化対策を行う委員会等や請求事務委託業者とも連携し、診療報酬の獲得に努めること。	

項 目	内 容	令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検							
① 患者数の確保、新規患者の掘り起こし	○ 地域包括ケアシステムの構築に向けて、地域連携室を中心に他の医療機関や介護サービス事業者等と一層の連携強化を図ります。	○ 各病院において、医療機関や関係機関への個別訪問等による患者数の増加や入退院支援の充実に取り組んだものの、目標の患者数を確保できていない状況。	区 分	病 院 名	令和7年度		令和6年度	目標比	前年比
					年間目標	上 半 期 実 績	上 半 期 実 績		
			1 日 平 均 入院患者数	江 差	40.0人	42.4人	40.0人	+ 2.4人	+ 2.4人
				羽 幌	19.4人	22.5人	19.5人	+ 3.1人	+ 3.0人
				緑 ケ 丘	55.0人	50.6人	55.0人	▲ 4.4人	▲ 4.4人
				向 陽 ケ 丘	34.3人	30.5人	33.8人	▲ 3.8人	▲ 3.3人
				コドモックル	62.8人	51.1人	59.0人	▲11.7人	▲ 7.9人
				計	211.6人	197.2人	207.3人	▲14.4人	▲10.1人
			1 日 平 均 外来患者数	江 差	255.5人	246.2人	252.7人	▲ 9.3人	▲ 6.5人
				羽 幌	154.2人	146.6人	147.3人	▲ 7.6人	▲ 0.7人
				緑 ケ 丘	141.9人	139.8人	141.9人	▲ 2.1人	▲ 2.1人
				向 陽 ケ 丘	90.7人	84.2人	90.7人	▲ 6.5人	▲ 6.5人
				コドモックル	158.4人	162.1人	160.0人	+ 3.7人	+ 2.1人
				計	800.7人	779.0人	792.6人	▲ 21.7人	▲ 13.6人
			病床利用率	江 差	37.1%	39.3%	37.1%	+ 2.2P	+ 2.2P
				羽 幌	43.2%	50.1%	43.3%	+ 6.9P	+ 7.5P
				緑 ケ 丘	71.5%	65.7%	71.5%	▲ 5.8P	▲ 5.8P
				向 陽 ケ 丘	32.7%	29.1%	32.2%	▲ 3.6P	▲ 3.1P
				コドモックル	61.6%	50.1%	57.8%	▲ 11.5P	▲ 7.7P
				計	48.4%	45.1%	47.4%	▲ 2.3P	▲ 2.3P

項 目	内 容	令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検				
① 患者数の確保、新規患者の掘り起こし	○ 地域連携室の活動などを通じて、健康診断や人間ドックの受託促進に取り組みます。	○ 江差病院及び羽幌病院において、地域の官公庁や企業、学校等の健康診断の受託促進に取り組むとともに、産業医や学校医等の受託契約を締結。				
		区 分	病院名	令和7年度上期	令和6年度上期	増 減
		健診受診患者数	江 差	357人	270人	+87人
	○ 市民講座や研修会の開催、地域のイベントへの参画などを通じ、住民が健康への関心を高め、病気の早期発見につなげることができるよう、住民の意識の醸成を図ります。		羽 幌	344人	384人	▲40人
	○ ホームページや広報誌等の各種媒体を有効に活用し、病院広報の充実を図ります。		計	701人	654人	+47人
		○ 各病院において、住民向けの講座や研修会の開催、啓発イベント等を開催。				
		○ 各病院において、ホームページやSNSへの掲載、広報誌等の作成に加え、地域自治体の広報誌なども活用しながら、病院の機能や特色等に係る情報を発信。				
② 病院が有する機能の有効活用	○ 高額医療機器の利用増や周辺医療機関との共同利用を推進します。	○ 江差病院において、圏域内医療機関との共同利用を推進するとともに、江差・羽幌病院において、CT・MRI検査数の増加に取り組んだ。				
	○ 地域の連携活動を通じて、道立病院の医療従事者の有効活用に努めます。	○ 各病院において、他の医療機関への派遣や研修を実施。				
		病 院 名	内 容			上期実績
		江 差	他の医療機関への医師の派遣			1回/月
		羽 幌	留萌市立病院との医師の相互派遣			2回/月
		緑 ケ 丘	地域の病院・障がい者支援施設への医師派遣			11回
		向 陽 ケ 丘	網走厚生病院との医師の相互派遣			2回/月
		コドモックル	市町村子ども発達支援センターへの専門職員の派遣			20回

項 目	内 容	令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検																																																																																		
③ 適切な診療報酬の獲得	○ 診療報酬に関する外部点検や請求事務委託業者との連携の強化による請求漏れの改善及び診療報酬改定、病院の機能見直し等に対応した新たな施設基準・加算取得の検討を進めます。	○ 各病院の委員会等において検討し、新たな施設基準・加算を取得。 <table><tr><th>病 院 名</th><th>項 目</th></tr><tr><td>羽 幌</td><td>・ 感染対策向上加算 2、薬剤管理指導料、病棟薬剤業務実施加算 1</td></tr><tr><td>向 陽 ケ 丘</td><td>・ 精神科地域移行実施加算、感染対策向上加算 3</td></tr><tr><td>コドモックル</td><td>・ 入院退院支援加算 1</td></tr></table>	病 院 名	項 目	羽 幌	・ 感染対策向上加算 2、薬剤管理指導料、病棟薬剤業務実施加算 1	向 陽 ケ 丘	・ 精神科地域移行実施加算、感染対策向上加算 3	コドモックル	・ 入院退院支援加算 1																																																																										
		病 院 名	項 目																																																																																	
		羽 幌	・ 感染対策向上加算 2、薬剤管理指導料、病棟薬剤業務実施加算 1																																																																																	
向 陽 ケ 丘	・ 精神科地域移行実施加算、感染対策向上加算 3																																																																																			
コドモックル	・ 入院退院支援加算 1																																																																																			
○ 未収金の回収に向けて、弁護士法人と回収業務に係る委託契約を締結。(継続) ○ 新たな施設基準・加算を取得した病院がある一方、算定区分の引き下げや要件未達による施設基準辞退などにより目標の診療単価に達していない病院があり、目標に達していない状況。 <table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th rowspan="2">病 院 名</th><th colspan="2">令和7年度</th><th>令和6年度</th><th rowspan="2">目標比</th><th rowspan="2">前年比</th></tr><tr><th>年間目標</th><th>上 半 期 実 績</th><th>上 半 期 実 績</th></tr><tr><td rowspan="6">入 院 患 者 1 人 1 日 当たり収益</td><td>江 差</td><td>42,637 円</td><td>37,983 円</td><td>39,891 円</td><td>▲4,654 円</td><td>▲1,908 円</td></tr><tr><td>羽 幌</td><td>38,217 円</td><td>35,695 円</td><td>36,319 円</td><td>▲2,522 円</td><td>▲624 円</td></tr><tr><td>緑 ケ 丘</td><td>24,306 円</td><td>25,693 円</td><td>24,334 円</td><td>+1,387 円</td><td>+1,359 円</td></tr><tr><td>向 陽 ケ 丘</td><td>16,964 円</td><td>17,955 円</td><td>17,059 円</td><td>+991 円</td><td>+896 円</td></tr><tr><td>コドモックル</td><td>147,051 円</td><td>87,979 円</td><td>92,555 円</td><td>▲59,072 円</td><td>▲4,576 円</td></tr><tr><td>計</td><td>64,299 円</td><td>44,434 円</td><td>46,692 円</td><td>▲19,865 円</td><td>▲2,258 円</td></tr><tr><td rowspan="6">外 来 患 者 1 人 1 日 当たり収益</td><td>江 差</td><td>12,183 円</td><td>12,019 円</td><td>11,766 円</td><td>▲164 円</td><td>+253 円</td></tr><tr><td>羽 幌</td><td>12,040 円</td><td>11,793 円</td><td>11,988 円</td><td>▲247 円</td><td>▲195 円</td></tr><tr><td>緑 ケ 丘</td><td>7,785 円</td><td>7,980 円</td><td>7,865 円</td><td>+195 円</td><td>+115 円</td></tr><tr><td>向 陽 ケ 丘</td><td>9,227 円</td><td>8,898 円</td><td>8,996 円</td><td>▲329 円</td><td>▲98 円</td></tr><tr><td>コドモックル</td><td>14,688 円</td><td>15,132 円</td><td>12,972 円</td><td>+444 円</td><td>+2,160 円</td></tr><tr><td>計</td><td>11,537 円</td><td>11,562 円</td><td>11,036 円</td><td>+25 円</td><td>+526 円</td></tr></table>	区 分	病 院 名	令和7年度		令和6年度	目標比	前年比	年間目標	上 半 期 実 績	上 半 期 実 績	入 院 患 者 1 人 1 日 当たり収益	江 差	42,637 円	37,983 円	39,891 円	▲4,654 円	▲1,908 円	羽 幌	38,217 円	35,695 円	36,319 円	▲2,522 円	▲624 円	緑 ケ 丘	24,306 円	25,693 円	24,334 円	+1,387 円	+1,359 円	向 陽 ケ 丘	16,964 円	17,955 円	17,059 円	+991 円	+896 円	コドモックル	147,051 円	87,979 円	92,555 円	▲59,072 円	▲4,576 円	計	64,299 円	44,434 円	46,692 円	▲19,865 円	▲2,258 円	外 来 患 者 1 人 1 日 当たり収益	江 差	12,183 円	12,019 円	11,766 円	▲164 円	+253 円	羽 幌	12,040 円	11,793 円	11,988 円	▲247 円	▲195 円	緑 ケ 丘	7,785 円	7,980 円	7,865 円	+195 円	+115 円	向 陽 ケ 丘	9,227 円	8,898 円	8,996 円	▲329 円	▲98 円	コドモックル	14,688 円	15,132 円	12,972 円	+444 円	+2,160 円	計	11,537 円	11,562 円	11,036 円	+25 円	+526 円
区 分			病 院 名	令和7年度				令和6年度	目標比	前年比																																																																										
	年間目標	上 半 期 実 績		上 半 期 実 績																																																																																
入 院 患 者 1 人 1 日 当たり収益	江 差	42,637 円	37,983 円	39,891 円	▲4,654 円	▲1,908 円																																																																														
	羽 幌	38,217 円	35,695 円	36,319 円	▲2,522 円	▲624 円																																																																														
	緑 ケ 丘	24,306 円	25,693 円	24,334 円	+1,387 円	+1,359 円																																																																														
	向 陽 ケ 丘	16,964 円	17,955 円	17,059 円	+991 円	+896 円																																																																														
	コドモックル	147,051 円	87,979 円	92,555 円	▲59,072 円	▲4,576 円																																																																														
	計	64,299 円	44,434 円	46,692 円	▲19,865 円	▲2,258 円																																																																														
外 来 患 者 1 人 1 日 当たり収益	江 差	12,183 円	12,019 円	11,766 円	▲164 円	+253 円																																																																														
	羽 幌	12,040 円	11,793 円	11,988 円	▲247 円	▲195 円																																																																														
	緑 ケ 丘	7,785 円	7,980 円	7,865 円	+195 円	+115 円																																																																														
	向 陽 ケ 丘	9,227 円	8,898 円	8,996 円	▲329 円	▲98 円																																																																														
	コドモックル	14,688 円	15,132 円	12,972 円	+444 円	+2,160 円																																																																														
	計	11,537 円	11,562 円	11,036 円	+25 円	+526 円																																																																														
○ 新たな施設基準・加算の取得に向けて、院内の関係部門が連携しながら、研修会の開催など、医事部門の専門性の向上を図ります。	○ 各病院の事務職員向けに病院経営に係る基礎知識や診療報酬に係る研修会を開催。																																																																																			

項 目	内 容	令和7年度(2025 年度)上半期における取組の自己点検												
④ 道立病院の利用促進に向けた取組の充実	○ 患者満足度調査等を通じて、病院が提供しているサービスに対する利用者の評価を把握し、患者サービス、療養環境の向上を図ります。	○ 各病院において患者満足度調査を実施し、必要に応じて対応策を実施。												
	○ 各病院における関係機関との連携活動や受療動向のデータ分析を通じて把握した地域ニーズを病院運営に反映し、患者や家族にとって利用しやすい環境となるよう検討を進め、患者の確保を図ります。	○ 地域の医療ニーズを把握し、医療機能の維持・充実を図った。 <table><tr><th>病 院 名</th><th>取組内容</th></tr><tr><td>江 差</td><td>・ 地域包括ケア病床の確保、透析患者の受入</td></tr><tr><td>羽 幌</td><td>・ 小児科外来の放課後時間枠の継続</td></tr><tr><td>緑 ケ 丘</td><td>・ 児童・思春期精神科医療の提供</td></tr><tr><td>向 陽 ケ 丘</td><td>・ オンライン診療の実施</td></tr><tr><td>コドモックル</td><td>・ 日帰り型産後ケア事業の開始 ・ 赤ちゃんの頭のかたち外来の新患診察日の拡大</td></tr></table>	病 院 名	取組内容	江 差	・ 地域包括ケア病床の確保、透析患者の受入	羽 幌	・ 小児科外来の放課後時間枠の継続	緑 ケ 丘	・ 児童・思春期精神科医療の提供	向 陽 ケ 丘	・ オンライン診療の実施	コドモックル	・ 日帰り型産後ケア事業の開始 ・ 赤ちゃんの頭のかたち外来の新患診察日の拡大
	病 院 名	取組内容												
江 差	・ 地域包括ケア病床の確保、透析患者の受入													
羽 幌	・ 小児科外来の放課後時間枠の継続													
緑 ケ 丘	・ 児童・思春期精神科医療の提供													
向 陽 ケ 丘	・ オンライン診療の実施													
コドモックル	・ 日帰り型産後ケア事業の開始 ・ 赤ちゃんの頭のかたち外来の新患診察日の拡大													
○ ホームページや広報誌等の各種媒体を有効に活用し、病院広報の一層の充実を図り、各病院の機能や役割に関する住民理解を促進します。	○ 各病院において、ホームページやＳＮＳへの掲載、広報誌等の作成に加え、地域自治体の広報誌なども活用しながら、病院の機能や特色等に係る情報を発信した。【再掲】													

● 委員会評価（委員長私案）

○ 新たな診療科の開設や診療枠の拡大など患者数の確保や、加算の取得・区分の引き上げなど診療報酬の確保に取り組んでいるものの、患者数及び診療単価ともに目標に達していない状況にあることから、対策の追加も含め各般の取組を強化すること。
--

(2) 費用の縮減

令和6年度(2024年度)の委員会評価

- 後発医薬品の採用拡大など医薬材料費の縮減に努めていることは認められるが、医薬材料費比率は目標を達成できておらず、更なる縮減に向けて取り組むこと。
- 光熱水費の単価が上昇する中、節電・省エネに取り組み、費用を縮減したことは評価する。引き続き、各般の取組により費用縮減に努めること。

項 目	内 容	令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検																																																				
・ 費用の縮減	○ 無駄のない適正な管理経費の執行による医業費用の節減を図ります。	○ スケールメリットを働かせるとともに、各病院の業務負担の軽減を図るため、医事業務、医師事務作業補助及び医薬品の発注に関し、本庁一括契約を実施。(継続) ○ Web会議の活用及びペーパーレス化の推進による経費の節減。(継続) ○ 療養環境に十分配慮しながら、電球のLED化や電気料の見える化、節水システム等により光熱水費の節減に取り組んだ。(継続) ○ 上記に加え、各病院において医薬材料費をはじめ各種経費の縮減に取り組んだものの、医業収益の確保が難しいことに加え、医薬材料単価の高騰などにより目標比率まで削減できていない状況。																																																				
		<table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th rowspan="2">病 院 名</th><th colspan="2">令和7年度</th><th>令和6年度</th><th rowspan="2">目標比</th><th rowspan="2">前年比</th></tr><tr><th>年間目標</th><th>上半期実績</th><th>上半期実績</th></tr><tr><td rowspan="6">医薬材料費 対医業収益 率</td><td>江 差</td><td>23.3%</td><td>22.7%</td><td>23.6%</td><td>▲0.6P</td><td>▲0.9P</td></tr><tr><td>羽 幌</td><td>23.8%</td><td>23.0%</td><td>25.3%</td><td>▲0.8P</td><td>▲2.3P</td></tr><tr><td>緑 ケ 丘</td><td>8.8%</td><td>7.2%</td><td>7.9%</td><td>▲1.6P</td><td>▲0.7P</td></tr><tr><td>向 陽 ケ 丘</td><td>15.6%</td><td>16.0%</td><td>14.5%</td><td>+0.4P</td><td>+1.5P</td></tr><tr><td>コドモックル</td><td>27.4%</td><td>35.2%</td><td>29.5%</td><td>+7.8P</td><td>+5.7P</td></tr><tr><td>計</td><td>23.2%</td><td>25.2%</td><td>23.6%</td><td>+2.0P</td><td>+1.6P</td></tr></table>							区 分	病 院 名	令和7年度		令和6年度	目標比	前年比	年間目標	上半期実績	上半期実績	医薬材料費 対医業収益 率	江 差	23.3%	22.7%	23.6%	▲0.6P	▲0.9P	羽 幌	23.8%	23.0%	25.3%	▲0.8P	▲2.3P	緑 ケ 丘	8.8%	7.2%	7.9%	▲1.6P	▲0.7P	向 陽 ケ 丘	15.6%	16.0%	14.5%	+0.4P	+1.5P	コドモックル	27.4%	35.2%	29.5%	+7.8P	+5.7P	計	23.2%	25.2%	23.6%	+2.0P
区 分	病 院 名	令和7年度		令和6年度	目標比	前年比																																																
		年間目標	上半期実績	上半期実績																																																		
医薬材料費 対医業収益 率	江 差	23.3%	22.7%	23.6%	▲0.6P	▲0.9P																																																
	羽 幌	23.8%	23.0%	25.3%	▲0.8P	▲2.3P																																																
	緑 ケ 丘	8.8%	7.2%	7.9%	▲1.6P	▲0.7P																																																
	向 陽 ケ 丘	15.6%	16.0%	14.5%	+0.4P	+1.5P																																																
	コドモックル	27.4%	35.2%	29.5%	+7.8P	+5.7P																																																
	計	23.2%	25.2%	23.6%	+2.0P	+1.6P																																																
	○ 費用対効果や必要性、機器導入後の保守も見据え、医療機器等を整備します。	○ 医療機器や施設設備等の更新に係る費用の平準化を図るため、整備・更新計画を作成。 ○ 医療機器の購入と保守を一体化した入札の実施により、ランニングコストを含めた費用を縮減。 ○ 定期点検等により機器の機能を維持しながら、長期使用に努めた。																																																				

項 目	内 容	令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検						
・ 費用の縮減	○ 患者負担の軽減、費用の縮減に結びつく後発医薬品の採用拡大に努めます。	○ 各病院において、後発医薬品への切り替えを積極的に進めたものの、目標とする使用割合には達していない状況。						
		区 分	病 院 名	令和7年度		令和6年度	目標比	前年比
				年間目標	上 半 期 実 績	上 半 期 実 績		
		後発医薬品 使用割合	江 差	95.0%	96.9%	95.1%	+1.9P	+1.8P
			羽 幌	95.0%	97.4%	93.1%	+2.4P	+4.3P
			緑 ケ 丘	85.0%	85.4%	85.4%	+0.4P	0.0P
			向 陽 ケ 丘	90.0%	87.3%	92.5%	▲2.7P	▲5.2P
			コドモックル	75.0%	61.8%	75.8%	▲13.2P	▲14.0P
			計	88.0%	83.1%	88.6%	▲4.9P	▲5.5P

● 委員会評価（委員長私案）

- 本庁一括契約や共同購入への参加、後発医薬品の採用拡大など医薬材料費の縮減に取り組んでいるものの、医薬材料費比率、後発医薬品使用割合ともに目標に達していない状況にあることから、費用の縮減に向けた取組の徹底・強化を図ること。
- 各種経費について、効果的・効率的な執行や使用量の節減など、削減に向けた取組を着実に進めること。

(3) 経営基盤の強化

令和6年度(2024年度)の委員会評価

- 医育大学への医師派遣要請のほか、民間人材紹介事業者やインターネットの活用など、様々な手法を用いて医療従事者の確保に取り組んでいる。引き続き、魅力ある職場づくりを進めながら、より効果的な対策を検討し、効率的な職員配置体制に努めること。

項 目	内 容	令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検
・ 経営基盤の強化	○ 診療機能維持に必要な医師等医療従事者の確保に努めます。	<p><共通の取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての選考職で年齢要件を緩和し、随時試験、試験会場の拡大を実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 対象職種：看護師、助産師、薬剤師、管理栄養士、精神保健福祉士、公認心理師 ・ 年齢要件：61歳未満（医師は一部制度を除き64歳未満） ○ インターネット（ホームページ、SNS等）による医師・看護師・薬剤師等の募集。 ○ 民間企業・養成校等主催の説明会への参加及び道内外での医師・看護師・薬剤師等医療従事者の募集。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医 師：Web1回、看護師：対面7回（札幌・名寄・旭川・帯広）、 薬剤師：対面3回、Web1回、臨床検査技師：Web1回 ○ 民間人材紹介事業者を通じた募集（医師8社、看護師6社、薬剤師5社）。 ○ 医師会・看護協会・薬剤師会など関係団体との連携や情報誌等による募集。 <p><医師確保対策></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 道内3医育大学への医師派遣要請の実施（29回）。 ○ 江差病院では、札幌医科大学と連携した南檜山地域医療研究教育センター事業により、教員医師等の派遣及び初期臨床研修医（4人）の受入。 ○ 初期臨床研修医の積極的な受入（江差：4人、羽幌：8人、緑ヶ丘：4人、ドモツル：1人） ○ 道立病院現地視察として、コドモツルにおいて道内医師1人を受入。 <p>（専攻医の受入）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 専門医養成プログラムの整備・運用により専攻医を確保。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 羽幌病院：総合診療科4人 ○ 羽幌病院において、フェローシップ制度参加者の募集を継続。 <p>（処遇改善、勤務環境改善（働き方改革）など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 指導医手当、医学研究調査手当の支給（継続）。 ○ 医師事務作業補助者（14人）及び医局秘書（1人）の配置（継続）。

項 目	内 容	令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検																																																								
・ 経営基盤の強化	(診療機能維持に必要な医師等医療従事者の確保に努めます。)	<div>【医師の配置状況（令和7年9月末現在）】</div> <table><tr><td>区 分</td><td>江差</td><td>羽幌</td><td>緑ヶ丘</td><td>向陽ヶ丘</td><td>コドモックル</td><td>計</td></tr><tr><td>定 数</td><td>17人</td><td>12人</td><td>9人</td><td>6人</td><td>49人</td><td>93人</td></tr><tr><td>現 員 数</td><td>9人</td><td>7人</td><td>6人</td><td>3人</td><td>44人</td><td>69人</td></tr><tr><td>差引(欠員)</td><td>▲8人</td><td>▲5人</td><td>▲3人</td><td>▲3人</td><td>▲5人</td><td>▲24人</td></tr></table> <div><看護師・助産師確保対策></div> <div>○ 看護師・助産師(22人)を新規採用。<ul style="list-style-type: none">・ ハローワークでの求人募集（看護師・助産師）。・ 民間の看護師就職情報サイトを活用した募集。(新卒者向け：3社、既卒者向け：3社)・ 道立病院の視察・勤務体験の実施。 (江差：1人、羽幌：2人、緑ヶ丘：3人、向陽ヶ丘：2人、コドモックル：6人)・ 任期付職員など雇用形態別の採用条件及び募集情報の周知（Webページ更新）。</div> <div>○ 看護師養成校(2校)を訪問し、病院の紹介・新人看護職員キャリアアッププランの周知。</div> <div>○ 道内外の看護職養成校(179校)に募集要項を送付。</div> <div>○ 大学求人向け求人票配信サイト(161校)を活用した病院紹介。</div> <div> (処遇改善、勤務環境改善（働き方改革）など)</div> <div>○ 病棟支援専門員を含む看護補助者の配置(18人)。(継続)</div> <div>○ 夜勤専従の看護師確保(延べ12人)による負担軽減。</div> <div>○ 中途採用看護職員(9人)及び新人看護職員(15人)に対し、本庁職員による面談など離職防止対策の支援を実施。<ul style="list-style-type: none">・ 看護職員（3年以内）の離職者数：2人（前年度上期実績：3人）</div> <div>○ 交替制勤務の選択制(2交替制又は3交替制の選択)の継続。</div> <div> 【看護師・助産師の配置状況（令和7年9月末現在）】</div> <table><tr><td>区 分</td><td>江差</td><td>羽幌</td><td>緑ヶ丘</td><td>向陽ヶ丘</td><td>コドモックル</td><td>計</td></tr><tr><td>定 数</td><td>86人</td><td>44人</td><td>67人</td><td>56人</td><td>232人</td><td>485人</td></tr><tr><td>現 員 数</td><td>70人</td><td>41人</td><td>64人</td><td>50人</td><td>224人</td><td>449人</td></tr><tr><td>差引(欠員)</td><td>▲16人</td><td>▲3人</td><td>▲3人</td><td>▲6人</td><td>▲8人</td><td>▲36人</td></tr></table> <div>※再任用職員（フルタイム）を含む。</div> <div>※会計年度任用職員(江差：2人、緑ヶ丘：3人、向陽ヶ丘：1人)は含まない。</div>	区 分	江差	羽幌	緑ヶ丘	向陽ヶ丘	コドモックル	計	定 数	17人	12人	9人	6人	49人	93人	現 員 数	9人	7人	6人	3人	44人	69人	差引(欠員)	▲8人	▲5人	▲3人	▲3人	▲5人	▲24人	区 分	江差	羽幌	緑ヶ丘	向陽ヶ丘	コドモックル	計	定 数	86人	44人	67人	56人	232人	485人	現 員 数	70人	41人	64人	50人	224人	449人	差引(欠員)	▲16人	▲3人	▲3人	▲6人	▲8人	▲36人
区 分	江差	羽幌	緑ヶ丘	向陽ヶ丘	コドモックル	計																																																				
定 数	17人	12人	9人	6人	49人	93人																																																				
現 員 数	9人	7人	6人	3人	44人	69人																																																				
差引(欠員)	▲8人	▲5人	▲3人	▲3人	▲5人	▲24人																																																				
区 分	江差	羽幌	緑ヶ丘	向陽ヶ丘	コドモックル	計																																																				
定 数	86人	44人	67人	56人	232人	485人																																																				
現 員 数	70人	41人	64人	50人	224人	449人																																																				
差引(欠員)	▲16人	▲3人	▲3人	▲6人	▲8人	▲36人																																																				

項 目	内 容	令和7年度(2025 年度)上半期における取組の自己点検																																																																																																		
・ 経営基盤の強化	(診療機能維持に必要な医師等医療従事者の確保に努めます。)	<p><薬剤師・その他の医療技術者確保対策></p> <p>○ 薬剤師(2 人)、管理栄養士(1 人)、精神保健福祉士(2 人)を新規採用。</p> <p>・ 道立病院局ホームページ採用情報のリニューアル</p> <p>・ ハローワークでの求人募集(管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、精神保健福祉士)</p> <p>・ 薬剤師の道外試験会場の設定(継続)</p> <p>○ 道内外の薬剤師養成校(78 校)への募集要項の送付。</p> <p>(処遇改善、勤務環境改善(働き方改革)など)</p> <p>○ コメディカル職員の研修・学会等参加に係る経費の支援(継続)</p> <p>○ 医育大学等への長期研修派遣制度の継続</p> <p>○ 札幌医科大学からの薬剤師派遣による負担軽減(羽幌 6 か月間、江差スポット派遣 1 回)</p> <p>【薬剤師・その他の職種の配置状況(令和7年9月末現在)】</p> <table><tr><th>区 分</th><th>江差</th><th>羽幌</th><th>緑ヶ丘</th><th>向陽ヶ丘</th><th>コドモックル</th><th>計</th></tr><tr><td>薬剤師</td><td>2 人</td><td>1 人</td><td>2 人</td><td>2 人</td><td>5 人</td><td>12 人</td></tr><tr><td>放射線技師</td><td>5 人</td><td>3 人</td><td>2 人</td><td>2 人</td><td>7 人</td><td>19 人</td></tr><tr><td>臨床検査技師</td><td>5 人</td><td>2 人</td><td>2 人</td><td>2 人</td><td>12 人</td><td>23 人</td></tr><tr><td>臨床工学技士</td><td>4 人</td><td>2 人</td><td>－</td><td>－</td><td>5 人</td><td>11 人</td></tr><tr><td>理学療法士</td><td>2 人</td><td>3 人</td><td>－</td><td>－</td><td>15 人</td><td>20 人</td></tr><tr><td>作業療法士</td><td>1 人</td><td>－</td><td>4 人</td><td>2 人</td><td>9 人</td><td>16 人</td></tr><tr><td>言語聴覚士</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>8 人</td><td>8 人</td></tr><tr><td>視能訓練士</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>1 人</td><td>1 人</td></tr><tr><td>管理栄養士</td><td>1 人</td><td>1 人</td><td>1 人</td><td>1 人</td><td>2 人</td><td>6 人</td></tr><tr><td>保育士</td><td>－</td><td>－</td><td>1 人</td><td>－</td><td>12 人</td><td>13 人</td></tr><tr><td>社会福祉士</td><td>2 人</td><td>2 人</td><td>－</td><td>－</td><td>5 人</td><td>9 人</td></tr><tr><td>精神保健福祉士</td><td>－</td><td>－</td><td>5 人</td><td>3 人</td><td>－</td><td>8 人</td></tr><tr><td>公認心理師</td><td>－</td><td>－</td><td>2 人</td><td>1 人</td><td>3 人</td><td>6 人</td></tr></table> <p>※再任用職員(フルタイム)を含む。</p>	区 分	江差	羽幌	緑ヶ丘	向陽ヶ丘	コドモックル	計	薬剤師	2 人	1 人	2 人	2 人	5 人	12 人	放射線技師	5 人	3 人	2 人	2 人	7 人	19 人	臨床検査技師	5 人	2 人	2 人	2 人	12 人	23 人	臨床工学技士	4 人	2 人	－	－	5 人	11 人	理学療法士	2 人	3 人	－	－	15 人	20 人	作業療法士	1 人	－	4 人	2 人	9 人	16 人	言語聴覚士	－	－	－	－	8 人	8 人	視能訓練士	－	－	－	－	1 人	1 人	管理栄養士	1 人	1 人	1 人	1 人	2 人	6 人	保育士	－	－	1 人	－	12 人	13 人	社会福祉士	2 人	2 人	－	－	5 人	9 人	精神保健福祉士	－	－	5 人	3 人	－	8 人	公認心理師	－	－	2 人	1 人	3 人	6 人
区 分	江差	羽幌	緑ヶ丘	向陽ヶ丘	コドモックル	計																																																																																														
薬剤師	2 人	1 人	2 人	2 人	5 人	12 人																																																																																														
放射線技師	5 人	3 人	2 人	2 人	7 人	19 人																																																																																														
臨床検査技師	5 人	2 人	2 人	2 人	12 人	23 人																																																																																														
臨床工学技士	4 人	2 人	－	－	5 人	11 人																																																																																														
理学療法士	2 人	3 人	－	－	15 人	20 人																																																																																														
作業療法士	1 人	－	4 人	2 人	9 人	16 人																																																																																														
言語聴覚士	－	－	－	－	8 人	8 人																																																																																														
視能訓練士	－	－	－	－	1 人	1 人																																																																																														
管理栄養士	1 人	1 人	1 人	1 人	2 人	6 人																																																																																														
保育士	－	－	1 人	－	12 人	13 人																																																																																														
社会福祉士	2 人	2 人	－	－	5 人	9 人																																																																																														
精神保健福祉士	－	－	5 人	3 人	－	8 人																																																																																														
公認心理師	－	－	2 人	1 人	3 人	6 人																																																																																														

項 目	内 容	令和7年度(2025 年度)上半期における取組の自己点検																			
・ 経営基盤の強化	(診療機能維持に必要な医師等医療従事者の確保に努めます。)	<福利厚生の充実> ○ 院内感染防止を目的として実施する職員のインフルエンザワクチンの予防接種の無料化(継続) ○ 「小児ワクチンの接種対象の拡大」及び「抗体価やワクチン接種状況の適切な管理」の実施に向けた検討。 ○ 子育て支援休暇の充実(取得事由の追加) ・ 入学式や授業参観など学校行事への参加、感染症に伴う学級閉鎖、PTA活動																			
	○ 自治体病院等との派遣・交流などを通じた病院経営に精通する職員の育成について検討します。	○ 公的病院を運営する団体への派遣経験者を管理職に配置(継続) ○ 総務省職員の受入、北海道厚生局との人事交流 ・ 本庁に診療報酬等の専門知識を持つ職員を配置																			
	○ 病院事業管理者が医療環境への変化に即した的確な経営判断とリーダーシップを発揮し、経営改革を推進することができるよう、引き続き業務執行体制の整備に努めます。	<組織機構改正等> <table><tr><th>病 院 名</th><th>内 容</th><th>目 的</th></tr><tr><td>羽 幌</td><td>理学療法士の増員(継続)</td><td>地域包括ケア病床やフレイル外来などリハビリ機能の強化</td></tr><tr><td rowspan="2">緑 ケ 丘</td><td>精神保健福祉士の増員(継続)</td><td>予診や診断書作成補助など医師の業務負担軽減、患者確保</td></tr><tr><td>公認心理師の配置(継続)</td><td>心理検査の待機時間の長期化や、カウンセリングなど心理面接件数の増加への対応</td></tr><tr><td rowspan="3">コドモックル</td><td>新生児科医師の増員</td><td>医療機能の充実・強化</td></tr><tr><td>看護師の増員(地域連携)</td><td>退院困難な要因を抱える患者の入退院支援の充実</td></tr><tr><td>薬剤師の増員</td><td>安定的な病棟薬剤業務の遂行</td></tr></table>			病 院 名	内 容	目 的	羽 幌	理学療法士の増員(継続)	地域包括ケア病床やフレイル外来などリハビリ機能の強化	緑 ケ 丘	精神保健福祉士の増員(継続)	予診や診断書作成補助など医師の業務負担軽減、患者確保	公認心理師の配置(継続)	心理検査の待機時間の長期化や、カウンセリングなど心理面接件数の増加への対応	コドモックル	新生児科医師の増員	医療機能の充実・強化	看護師の増員(地域連携)	退院困難な要因を抱える患者の入退院支援の充実	薬剤師の増員
病 院 名	内 容	目 的																			
羽 幌	理学療法士の増員(継続)	地域包括ケア病床やフレイル外来などリハビリ機能の強化																			
緑 ケ 丘	精神保健福祉士の増員(継続)	予診や診断書作成補助など医師の業務負担軽減、患者確保																			
	公認心理師の配置(継続)	心理検査の待機時間の長期化や、カウンセリングなど心理面接件数の増加への対応																			
コドモックル	新生児科医師の増員	医療機能の充実・強化																			
	看護師の増員(地域連携)	退院困難な要因を抱える患者の入退院支援の充実																			
	薬剤師の増員	安定的な病棟薬剤業務の遂行																			

● 委員会評価(委員長私案)

○ 医育大学への派遣要請を継続的かつ頻繁に行うとともに、随時試験の実施や試験会場の拡大など様々な募集活動に取り組んでいることは評価する。 しかしながら、医師及び看護師・助産師とも相当数の欠員が発生していることに加え、今後、生産年齢人口の減少等に伴い人材確保の困難さが増すものと考えられることから、より一層、取組を強化するとともに、限られた医療人材の効果的・効率的な活用の観点から診療体制の見直しについて検討を進めること。

(4) デジタル化への対応

令和6年度(2024年度)の委員会評価

- マイナ保険証の利用促進やデジタル技術の活用に取り組んでいることは評価する。引き続き、医療DXの進展や国の取組状況を注視しつつ、医療の質の向上と病院経営の効率化に向けたデジタル技術の活用に取り組むこと。

項 目	内 容	令和7年度(2025 年度)上半期における取組の自己点検																							
・ デジタル化への対応	○ I C Tによるへき地医療や離島診療支援を行うとともに、道内医育大学・基幹病院等とネットワークを繋げ、症例検討や学生実習等教育に取り組むなど、I C Tを活用した医療の質の向上に努めます。	○ 羽幌病院において、離島診療所の医師不在時に緊急患者が発生した場合、オンライン診療を実施。 ○ 向陽ヶ丘病院において、網走市の事業を活用し、施設等に入所している患者に対し、オンライン診療を実施。																							
	○ 新興感染症への対応のため、感染の発生状況等に応じた電話診療やオンライン面会を実施します。	○ オンライン面会ができる環境を維持（継続）																							
	○ 国の動向を踏まえた電子カルテ情報等の標準化への対応や各種情報システム等の活用による他医療機関との診療情報の共有を進めるとともに、医師をはじめとする医療従事者の負担軽減に向けた I C Tの導入を検討するなど、働き方改革と病院経営の効率化を推進します。	○ 各病院の役割や現状に応じて、I C Tの活用を推進。 ○ 診療・薬剤情報の閲覧など問診の円滑化のため、オンライン資格確認等システムを活用。 <table><tr><th>病院名</th><th>取組内容</th></tr><tr><td>江 差</td><td>・ 医療情報連携ネットワーク内でのプログレスノートの公開開始 ・ 病院情報の閲覧可能対象機関の拡大（介護事業所等）</td></tr><tr><td>羽 幌</td><td>・ コミュニケーションアプリ（J o i n）の活用による留萌市立病院・旭川赤十字病院との画像情報の共有 ・ 電子カルテの導入に向けた検討。（令和7年度整備）</td></tr><tr><td>コドモックル</td><td>・ 医療情報連携ネットワークへの参画</td></tr></table>	病院名	取組内容	江 差	・ 医療情報連携ネットワーク内でのプログレスノートの公開開始 ・ 病院情報の閲覧可能対象機関の拡大（介護事業所等）	羽 幌	・ コミュニケーションアプリ（J o i n）の活用による留萌市立病院・旭川赤十字病院との画像情報の共有 ・ 電子カルテの導入に向けた検討。（令和7年度整備）	コドモックル	・ 医療情報連携ネットワークへの参画															
	病院名	取組内容																							
江 差	・ 医療情報連携ネットワーク内でのプログレスノートの公開開始 ・ 病院情報の閲覧可能対象機関の拡大（介護事業所等）																								
羽 幌	・ コミュニケーションアプリ（J o i n）の活用による留萌市立病院・旭川赤十字病院との画像情報の共有 ・ 電子カルテの導入に向けた検討。（令和7年度整備）																								
コドモックル	・ 医療情報連携ネットワークへの参画																								
○ マイナンバーカードの健康保険証利用について、院内掲示等により普及啓発に努めます。	○ 各病院において、ポスター掲示やチラシの配布、窓口での声掛けなど利用促進に向けた取組を推進。全ての病院でマイナ保険証の利用率が向上した。 【マイナ保険証利用率】（レセプト件数に対する利用率） <table><tr><th>病院名</th><th>令和7年3月</th><th>令和7年8月</th><th>増 減</th></tr><tr><td>江 差</td><td>19.9%</td><td>30.8%</td><td>+10.8P</td></tr><tr><td>羽 幌</td><td>21.4%</td><td>33.4%</td><td>+12.0P</td></tr><tr><td>緑 ケ 丘</td><td>32.0%</td><td>47.8%</td><td>+15.8P</td></tr><tr><td>向 陽 ケ 丘</td><td>44.0%</td><td>57.4%</td><td>+13.4P</td></tr><tr><td>コドモックル</td><td>21.8%</td><td>30.0%</td><td>+ 8.2P</td></tr></table>	病院名	令和7年3月	令和7年8月	増 減	江 差	19.9%	30.8%	+10.8P	羽 幌	21.4%	33.4%	+12.0P	緑 ケ 丘	32.0%	47.8%	+15.8P	向 陽 ケ 丘	44.0%	57.4%	+13.4P	コドモックル	21.8%	30.0%	+ 8.2P
病院名	令和7年3月	令和7年8月	増 減																						
江 差	19.9%	30.8%	+10.8P																						
羽 幌	21.4%	33.4%	+12.0P																						
緑 ケ 丘	32.0%	47.8%	+15.8P																						
向 陽 ケ 丘	44.0%	57.4%	+13.4P																						
コドモックル	21.8%	30.0%	+ 8.2P																						

項 目	内 容	令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検
・ デジタル化への対応	○ 国が作成した「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」等を踏まえるとともに、医療情報システムの保守業者との連携を図るなど、セキュリティ対策に取り組めます。	○ 国が作成したガイドラインに基づく「医療機関におけるサイバーセキュリティ対策チェックリスト」により、本庁において、各病院及びシステム保守業者が適切にセキュリティ対策を講じていることを確認。(7月)

● 委員会評価（委員長私案）

○ 電子処方箋・電子カルテの導入や医療情報連携ネットワークへの参画などデジタル化に取り組んでいることは評価する。
○ 国における医療DXの推進やデジタル技術の進展を踏まえながら、他の医療機関との診療情報の共有やオンライン診療の充実など、患者サービスの向上や業務の効率化等を図るため、ICTの利活用を促進すること。

（5）職員の経営改革意識の向上

項 目	内 容	令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検
・ 職員の経営改革意識の向上	○ 病院事業管理者による経営方針の徹底と職員への経営情報の共有を図ります。	○ 病院事業管理者と各病院長との意見交換を定期的実施。(2回/月) ○ 病院事業推進委員会やプラン検討部会に、各病院の院長のほか職員も参加し、経営の現状や課題に係る認識や危機感を共有。
	○ 病院事業の運営向上に向けて、他病院の好事例の共有化を図るとともに、職員表彰の実施など、職員のモチベーションを高める取組を実施します。	○ 経営改善に関し、特に顕著な取組を行った病院に対する表彰を実施（継続） ・ 本年度は、取組事例について各病院から募集中。

第3章 全体評価

令和6年度(2024年度)の委員会評価	
○	令和6年度診療報酬改定への対応やDPC算定における収益確保、光熱水費の節減や共同購入の活用等による費用の縮減、医療DXの推進によるデジタル化への対応など、各病院が経営改善に向けた各般の取組を行っていることは評価する。引き続き、収益確保や費用縮減の効果が最大限発揮できるよう、必要な取組を不断に進めること。
○	「北海道病院事業改革推進プラン」の見直しにあたっては、各病院が良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制を構築できるよう、各圏域や病院ごとの受療動向を見極めながら、道立病院が担うべき医療機能・役割を明確化するとともに、適正な病床規模や効率的な人員体制について検討するなど、経営改善に向けて実効性の高い計画となるよう取り組むこと。

令和7年度(2025年度)上半期実績						令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検	
〈経営指標及び数値目標〉						【患者数】	
指 標			令和7年度		令和6年度	目 標 比	前 年 比
			年間目標	上 半 期 実 績	上 半 期 実 績		
1 日 平 均 患 者 数	入 院	一般	167.3人	155.4人	162.1人	▲11.9人	▲6.7人
		精神	89.3人	81.1人	88.8人	▲8.2人	▲7.7人
		計	256.6人	236.5人	250.9人	▲20.1人	▲14.4人
	外 来		869.8人	855.2人	867.2人	▲14.6人	▲12.0人
病 床 利 用 率	一 般		51.5%	47.8%	49.9%	▲3.7P	▲2.1P
	精 神		49.1%	44.6%	40.0%	▲4.5P	+4.6P
	計		50.6%	46.7%	45.9%	▲3.9P	+0.8P
医 業 収 支 比 率			48.9%	45.9%	47.6%	▲3.0P	▲1.7P
医薬材料費対医業収支比率			23.2%	25.2%	23.6%	+2.0P	+1.6P
						【医薬材料費対医業収支比率】	
						○ 各病院において、医療機関や関係機関への個別訪問等による患者数の増加や入退院支援の充実に取り組んだものの、目標の患者数を確保できていない状況。(再掲)	
						○ 各病院において医薬材料費をはじめ各種経費の縮減に取り組んだものの、医業収益の確保が難しいことに加え、医薬材料単価の高騰などにより目標比率まで削減できていない状況。(再掲)	

令和7年度(2025年度)上半期実績						令和7年度(2025年度)上半期における取組の自己点検					
〈収支状況〉		(単位 百万円)					【収 益】				
区 分	令和7年度		令和6年度		目 標 比 (進捗率)	前 年 比	○ 外来収益は概ね目標を確保しているものの、入院収益が患者数及び診療単価ともに目標を大きく下回ったことにより、非常に低い水準となっている。				
	年間目標	上 半 期 実 績	上 半 期 実 績								
収 益	8,219	3,291	3,361	40.0%	97.9%						
医 業 収 益	7,338	2,782	2,918	37.9%	95.3%						
う ち 入 院 収 益	4,966	1,603	1,772	32.3%	90.5%						
う ち 外 来 収 益	2,235	1,117	1,085	50.0%	102.9%						
医業外収益(他会計負担金)	874	382	417	43.7%	91.6%						
特 別 利 益	7	127	26	1,814.3%	488.5%						
費 用	15,447	6,406	6,384	41.5%	100.3%						
医 業 費 用	15,007	6,055	6,129	40.3%	98.8%						
う ち 医 薬 材 料 費	1,701	702	690	41.3%	101.7%						
医 業 外 費 用	413	201	219	48.7%	91.8%						
特 別 損 失	29	150	36	517.2%	416.7%						
収 支 差	▲ 7,228	▲ 3,115	▲ 3,023	—	—	【費 用】					
						○ 医業収益に連動して医薬材料費等が低く抑えられていることに加え、欠員の発生による給与費の減などにより、目標よりも抑えられている状況。					
						【収支差】					
						○ 収支差(赤字額)は、下半期に支出時期が集中していること、今後、人事委員会勧告に基づく給与改定を予定していることなどから、目標よりも拡大する見込。					

- 【収 益】
- 外来収益は概ね目標を確保しているものの、入院収益が患者数及び診療単価ともに目標を大きく下回ったことにより、非常に低い水準となっている。
- 【費 用】
- 医業収益に連動して医薬材料費等が低く抑えられていることに加え、欠員の発生による給与費の減などにより、目標よりも抑えられている状況。
- 【収支差】
- 収支差（赤字額）は、下半期に支出時期が集中していること、今後、人事委員会勧告に基づく給与改定を予定していることなどから、目標よりも拡大する見込。

- 委員会評価（委員長私案）
- 限られた医療資源の中、地域に必要な質の高い医療の提供と経営改善の両立が図られるよう、プランに掲げる取組等を着実に推進すること。
 - 医療需要の変化や経営状況を随時把握し、必要に応じて取組の追加や見直しを行うなど、医療提供機能の維持・充実と経営改善に不断に取り組むこと。